

令和7年度

事業概要

(令和6年度実績)

地方独立行政法人

栃木県立リハビリテーションセンター

2025



ごあいさつ

地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター



理事長 山形 崇倫

令和7(2025)年6月

令和6年4月に理事長を拝命し、はや1年が経過しました。この間、皆様には格別の御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、令和7年度の事業概要（令和6年度実績を掲載）をお届けいたします。

令和6年度は、物価上昇や円安の進行などにより経済環境の厳しさが増し、また、政局の不透明さも重なり、先行きの見通しが難しい年でもありました。当センターにおいても、諸経費の高騰やいまだに続いているコロナ禍の影響も重なり、病院経営にとって厳しい一年でありました。

こうした環境下においても、当センターは県立病院としての使命を果たすべく、急性期医療機関からの早期受入れや連携強化に力を注ぎ、地域のリハビリ医療を支える役割を着実に担ってまいりました。職員一人ひとりがその役割を深く理解し、尽力した結果、病床利用率の向上に繋がるなど、一定の成果を上げることができました。こうした成果を上げることができたのも、すべての職員が地域医療の一端を担うという自覚を持ち、粘り強く職務を果たした賜物であり、当センターの何よりの財産であると自負しております。

各部門で力を入れた取組を紹介します。

まず、医療センターの入院部門では、リハビリが必要な患者さんを急性期病院からより早期に受け入れるために、ベッドコントロールを担当する医師・病棟師長・MSW等が日々奮闘しています。複数の合併症・併存症を持つ重症な患者さんも増えて来ていますが、救急医療を担う急性期病院との連携を更に強化し、転院受入の調整や患者情報の共有をより効率的に行うよう努めていきます。

外来部門では、主に小児の神経発達症（発達障がい）の診療が多くなっています。注意欠如多動症や限局性学習症など学齢期以降の受診も多く、療法士や心理士も交えた対応を行っていますが、教育現場の理解や対応を増やしていただけるように、連携も深めていきたいと思えます。また、PCT（親子相互交流療法）による親子支援の新たな取組も始めています。

こども発達支援センターでは、障がいのあるお子さんが身近な地域で障がいのない子どもたちと共に育つインクルージョンを推進するために、保育所等訪問支援や相談支援機能の充実を図りました。令和7年度は、従来の親子通園に乳幼児（1～2歳）のクラスを新設して、より早期の療育に取り組みます。

こども療育センターでは、医療的ケアが必要なお子さんを対象とした短期入所で緊急受入を開始しました。今後も体制の充実を図り、医療的ケア児支援を強化していけたらと考えています。

障害者自立訓練センター（駒生園）では、自立訓練（生活訓練）の対象となる高次脳機能障害のある方を積極的に受け入れました。今後も栃木県高次脳機能障害支援拠点機関や回復期リハビリを担う県内の医療機関等との連携強化を図り、訓練の充実と利用者増を図っていきます。

また、令和6年度は、センターの認知度向上等を目的に、ロゴマーク・サブロゴマークを新たに制定するとともに、公式ホームページをリニューアルしました。本事業概要と併せて、ぜひご覧ください。

依然として、医療を取り巻く状況は予断を許しませんが、当院の特色である質の高いリハビリテーション医療、そして患者さんに寄り添う多職種連携の強みをさらに磨きながら、持続可能な医療提供体制の構築に取り組んでまいります。

今後とも、県民の皆さんに安心して御利用いただける医療機関として、職員一同、一丸となって県立病院の役割をしっかりと果たしていく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

お気づきの点やご要望などがあれば何なりと御指摘いただけますと幸いです。

CONTENTS

第1 栃木県立リハビリテーションセンター

の概要

1 設置の目的	4
2 沿革	5
3 各施設の内容	6
4 センターの組織	8
(1) 組織図	8
(2) 職員配置状況	9
(3) 役員名簿	9
5 経営状況	10
(1) 栃木県立リハビリテーション センター中期計画の概要	10
(2) 目標とする指標の実績	11
6 主要器械備品	12
7 活動実施状況	13
(1) とちリハ病院研修会	13
① とちリハ病院研修会	13
② 出前講座	13
(2) ボランティア受入れ状況	15
(3) 実習生等受入れ状況	16
(4) その他活動状況	16
(5) 各種委員会・会議	17

第2 医療センター

1 診療概要	18
(1) 概要	18
(2) 病床数と診療科目	18
2 各診療科（常設科）	19
(1) リハビリテーション科	19
(2) 小児科	20
(3) 整形外科	22
(4) 神経内科	23
3 地域医療連携室	24
4 薬剤科	26
5 検査科	28
6 放射線科	30
7 栄養科	32
8 リハビリテーション部	34
9 看護部	37

第3 こども発達支援センター

1 概要	39
2 スタッフ紹介	39
3 活動実績	39
4 人材育成への取り組み	43
5 実習生受入れ状況	43
6 今後の方向性	43

第4 こども療育センター

1 概要	44
2 スタッフ紹介	44
3 活動実績	44
4 人材育成への取り組み	47
5 実習生受入れ状況	47
6 今後の方向性	47

第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

1 概要	48
2 スタッフ紹介	48
3 活動実績	48
4 人材育成への取り組み	52
5 実習生受入れ状況	52
6 今後の方向性	52

第6 医療安全管理

1 概要	53
2 各委員会等活動内容	53
3 過去5年間にける 医療事故等について	55

第7 研究論文、研究発表等

1 論文及び著書	57
2 学会発表	57
3 講演	59
4 センター内職員研修	60
5 センター内研究発表	64
6 委員等就任状況	64
7 その他	65



第1 栃木県立リハビリテーションセンターの概要

1 設置の目的

当センターは、主に回復期のリハビリテーション医療や障害児医療を提供する「医療センター」、児童福祉施設である「こども発達支援センター」及び「こども療育センター」、指定障害者支援施設である「障害者自立訓練センター（駒生園）」で構成される複合施設として、心身に障害がある県民の自立と社会参加を促進することを目的として設置されています。

平成 30（2018）年 4 月、権限の拡充とそれに伴う責任の自覚の下、自律的・弾力的で透明な経営を通じて、県民サービスの向上と経営の改善を図るため、県の組織から地方独立行政法人へ移行しました。

なお、障害者総合相談所については、平成 30（2018）年 4 月以降も引き続き県直営の施設として運営されています。

○法人の名称

地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター
（平成 30(2018) 年 4 月 1 日設立）

○法人の設立目的

心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する。

○法人の基本理念

私たちは、診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努め、心身に障害のある県民の生活の質の向上と地域生活への移行を促進します。

○法人の基本方針

- 1 私たちは、医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- 2 私たちは、障害者総合相談所とともに、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。
- 3 職員一人ひとりの不断の自己研鑽の下、リハビリテーションに関する調査研究を行いながら、法人が有する知見や技術を地域に還元します。
- 4 全ての職員が経営への参画意識を持って、効率的で健全な病院・施設の運営に努めます。

○法人が設置する病院等の名称

栃木県立リハビリテーションセンター
こども発達支援センター
こども療育センター
障害者自立支援センター（駒生園）

昭和 27(1952) 年 11 月	身体障害者福祉法第 11 条に基づき、宇都宮市若草町に身体障害者更生相談所設置 ①
昭和 35(1960) 年 11 月	児童福祉法に基づく肢体不自由児施設として、宇都宮市若草町に若草学園設置 入所定員 100 名 ②
昭和 36(1961) 年 5 月	身体障害者福祉法に基づく肢体不自由者更生施設として、宇都宮市若草町に身体障害者更生指導所を設置 入所定員 40 名 ③
昭和 48(1973) 年 4 月	①・②・③を統合し、身体障害医療福祉センターが発足（肢体不自由児施設 入所 100 名、母子入所 15 名、通所 40 名、肢体不自由者更生施設 入所 50 名、通所 7 名、重度身体障害者更生援護施設 入所 60 名）
昭和 63(1988) 年 3 月	「総合リハビリテーションシステム構想」策定
平成 13(2001) 年 9 月 1 日	身体障害医療福祉センターを引き継ぐとともに、リハビリテーション病院、心身障害児総合通園センターの機能を付加し、さらに知的障害者更生相談所を統合（吸収）して、宇都宮市駒生町にとちぎリハビリテーションセンターを開設（病院 80 床、肢体不自由児入所施設 35 名・親子入所 5 名、心身障害児通園施設 肢体不自由児 40 名・知的障害児 30 名、肢体不自由者更生施設 入所 30 名・通所 10 名、重度身体障害者更生援護施設 入所 50 名）
平成 14(2002) 年 9 月 1 日	回復期リハビリテーション病棟の開設
平成 18(2006) 年 4 月 1 日	肢体不自由者更生施設（駒生園）の管理運営を県直営化
平成 21(2009) 年 3 月 1 日	こども療育センターで人工呼吸器装着児の短期入所を開始
平成 21(2009) 年 4 月 1 日	駒生園を障害者自立支援法に基づく、指定障害者支援施設に移行 自立訓練（機能訓練）、施設入所支援、短期入所を開始
平成 22(2010) 年 4 月 1 日	高次脳機能障害支援拠点機関設置
平成 23(2011) 年 10 月 1 日	駒生園で自立訓練（生活訓練）を開始
平成 24(2012) 年 4 月 1 日	児童福祉法の一部改正により、肢体不自由児施設が医療型障害児入所施設に、また、肢体不自由児通園施設が医療型児童発達支援センターに、知的障害児通園施設が福祉型児童発達支援センターに移行
平成 30(2018) 年 4 月 1 日	地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンターを設立 栃木県立リハビリテーションセンターは従前の病院・施設部門を担い、相談支援部門は新たに設置された県の出先機関「栃木県障害者総合相談所」が同所で引き続き運営 6階病棟（40 床）の運用開始
平成 31(2019) 年 3 月 1 日	栃木県難病医療協力病院に指定
令和 2(2020) 年 1 月 1 日	5・6階病棟が回復期リハビリテーション病棟入院料施設基準 1 を取得
令和 3(2021) 年 4 月 1 日	こども発達支援センターで保育所等訪問支援事業を開始
令和 7(2025) 年 4 月 1 日	障害者自立訓練センター（駒生園）の利用定員変更（機能訓練 30 名→20 名、施設入所支援 30 名→20 名） こども発達支援センターの福祉型と医療型を一元化するとともに乳幼児クラスを開設

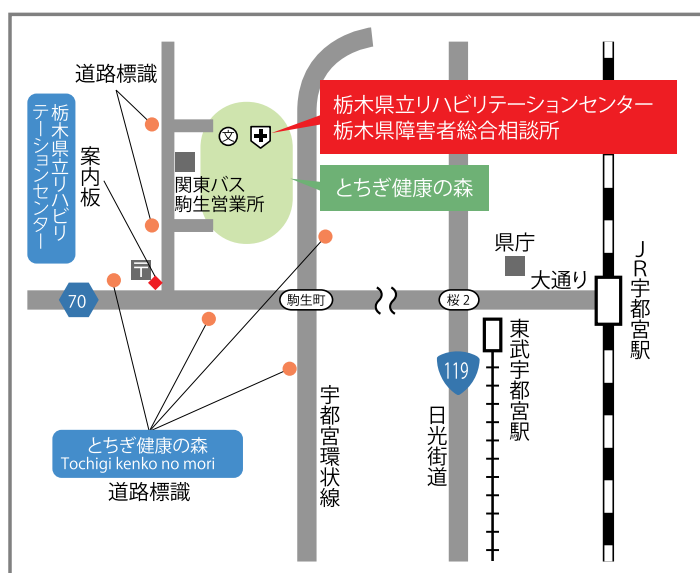
3 各施設の内容

- (1) 所在地 栃木県宇都宮市駒生町3337-1
- (2) 敷地面積 210,000㎡（栃木県との共有）
- (3) 建物の種類 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造地下1階、地上7階
- (4) 建築面積 8,663.59㎡
- (5) 延床面積 22,208.56㎡
- (6) 施設構成・運営形態等

施設の名称	種別及び定員	面積（㎡）	整備状況
医療センター	病床 120 床	13,664.49	H30 80 床から 40 床増床
こども療育センター	医療型障害児入所施設（病床33床） 入所 30 人 短期入所 4 人 （うち2人は人工呼吸器装着児等） 日中一時支援 4 人	2,166.91	H13 身障センターから移 転整備
こども発達支援センター	児童発達支援センター 通園 30 人	1,973.11	H13 身障センターから移 転整備
障害者自立訓練センター （駒生園）	指定障害者支援施設 自立訓練 30 人 機能訓練 20 人 生活訓練 10 人 施設入所支援 20 人 短期入所 4 人	4,152.81	H13 身障センターから移 転整備

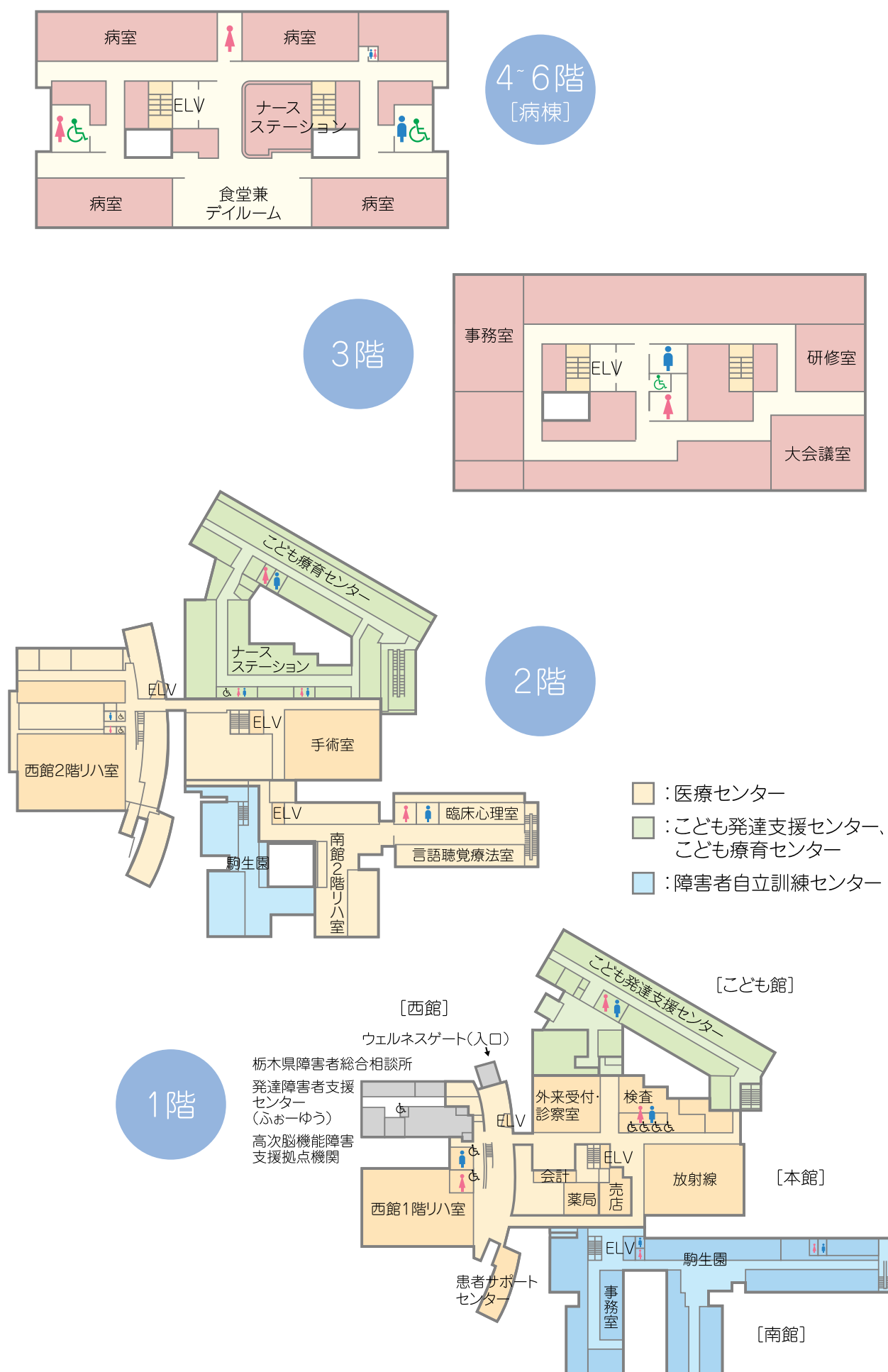
※身障センター：栃木県身体障害者医療福祉センター（昭和 48 年 3 月～平成 13 年 8 月）

(7) アクセス



- 車利用 ●東北自動車道 宇都宮 IC から 約 15 分
●東北自動車道 鹿沼 IC から 約 15 分
- 電車・バス ●JR 宇都宮駅から約 25 分
関東バス（6 番・7 番乗り場）
駒生営業所行き（健康の森経由）
「リハビリテーションセンター」下車
駒生営業所行き
「終点 駒生営業所」下車
●東武宇都宮駅から約 20 分
関東バス（東武駅前 乗車）
駒生営業所行き（健康の森経由）
「リハビリテーションセンター」下車
駒生営業所行き
「終点 駒生営業所」下車
- タクシー ●JR 宇都宮駅から約 20 分
3,000 円程度

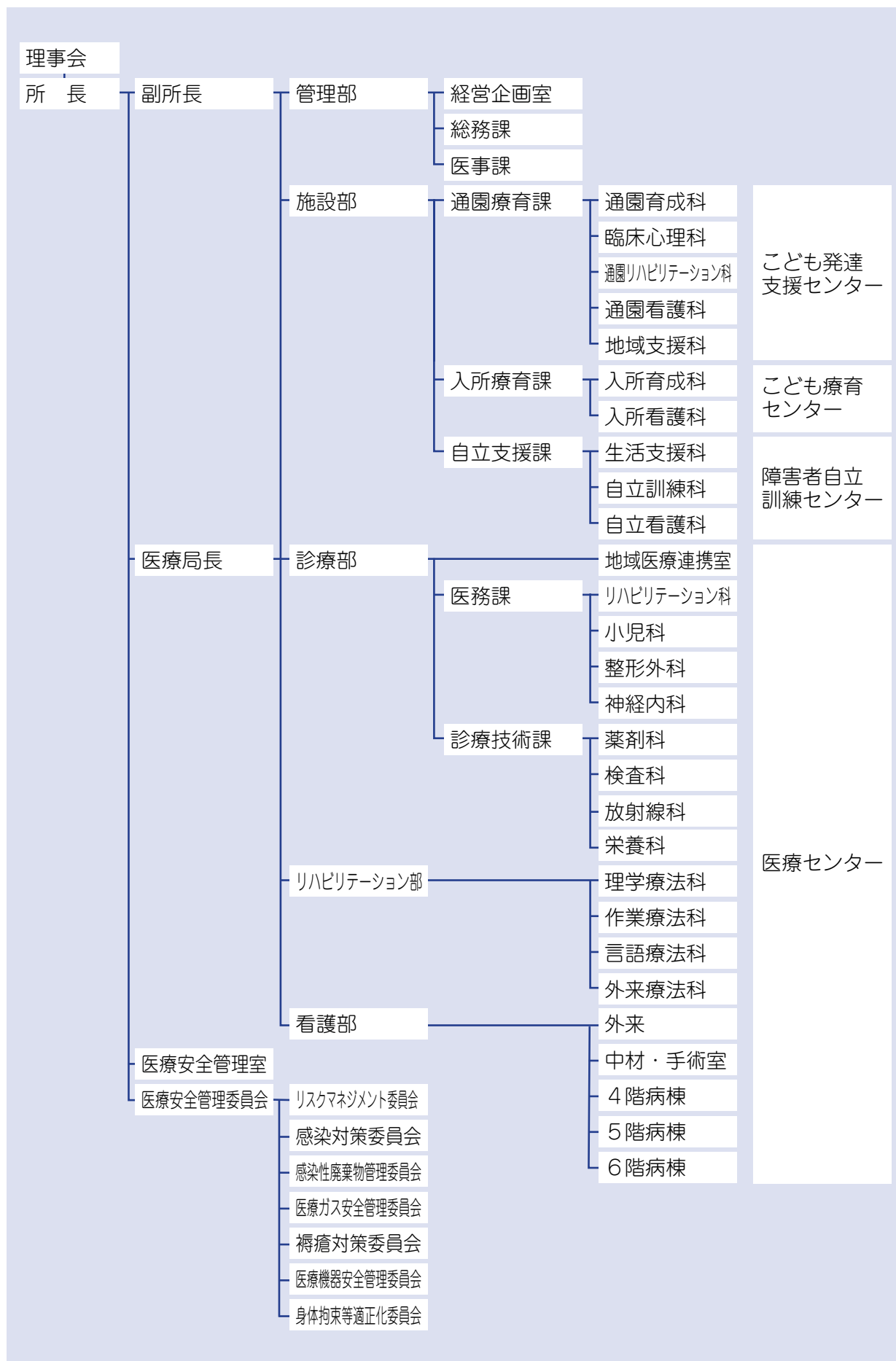
(8) フロアマップ



4 センターの組織

令和7(2025)年4月1日現在

(1) 組織図



(2) 職員配置状況

令和7(2025)年4月1日現在

職 種	管理部	施設部	診療部	リハビリテーション部	看護部	職種計
医師	1		14			15 (0)
看護師		21 (1)	1		69 (4)	91 (5)
理学療法士		5		43		48 (0)
作業療法士		4		36		40 (0)
言語聴覚士		2		14		16 (0)
薬剤師			4			4 (0)
臨床検査技師			3 (1)			3 (1)
診療放射線技師			3			3 (0)
管理栄養士			3			3 (0)
保健師		1				1 (0)
社会福祉士			4			4 (0)
保育士		15 (3)				15 (3)
公認心理師		6				6 (0)
福祉（介護）		10				10 (0)
事務	22	6	1 (1)			29 (1)
看護助手					(11)	0 (11)
歯科衛生士			(1)			0 (1)
技能職		(1)				0 (1)
作業職		(2)				0 (2)
夜勤専門員		(4)				0 (4)
労務職	(4)	(1)				0 (5)
部門計	23 (4)	70 (12)	33 (3)	93 (0)	69 (15)	288 (34)

※常勤職員と同様の期限付職員を含む
カッコ内は、業務嘱託員数（外数）

(3) 地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター役員名簿

令和7(2025)年4月1日現在

役職名	区 分	氏 名	備 考
理事長	常勤	山形 崇倫	栃木県立リハビリテーションセンター 所長兼務
副理事長	常勤	渡辺 直人	栃木県立リハビリテーションセンター 副所長兼務
理事	常勤	船越 政範	栃木県立リハビリテーションセンター 医療局長兼務
理事	非常勤	竹下 克志	自治医科大学 医学部 整形外科学講座 教授
理事	非常勤	畦上 恭彦	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 言語聴覚分野 特任教授
監事	非常勤	白土 陽子	法律事務所コンフォルト 弁護士
監事	非常勤	佐藤 千鶴子	佐藤千鶴子公認会計士事務所 公認会計士

5 経営状況

(1) 栃木県立リハビリテーションセンター中期計画の概要

【中期計画について】（地方独立行政法人法第 26 条、第 83 条）

- ・ 知事が定めた中期目標を達成するために、地方独立行政法人が知事の認可を受けて作成する計画。
- ・ 知事は、あらかじめ、議会の議決を経て中期計画を認可する。

《主な内容》

第1 中期計画の期間 令和5(2023)年4月1日～令和10(2028)年3月31日（5年間）

第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

- ◆ 医療と福祉が一体となった施設の特長を活かした、多職種連携によるリハビリ医療の提供
- ◆ 学齢期の発達障害等に対する診療体制の充実
- ◆ 重症患者の受入強化や、退院後の外来リハビリテーション医療等の積極的な提供

2 安全で安心な医療の提供

- ◆ ヒヤリ・ハットも含めた医療事故の原因分析や、研修の実施等による医療安全対策の推進
- ◆ 新興感染症の感染拡大時など公衆衛生上重大な危機に備えた取組の強化

3 患者・県民等の視点に立った医療の提供

- ◆ 患者や家族の立場に立った分かりやすい説明や助言等による医療提供サービスの向上
- ◆ デジタル技術の積極的な導入による患者や家族の利便性の向上

4 障害児・障害者の福祉の充実

- ◆ 肢体不自由児や発達障害児、医療的ケア児等への療育支援の充実
- ◆ 障害者自立訓練サービスへのニーズの変化を踏まえた自立訓練サービスの強化

5 人材の確保と育成

- ◆ 戦略的・効果的な業務運営が担える医療・福祉双方に精通した人材の確保と育成
- ◆ 働き方改革の推進等による健康で働き続けられる職場づくりに向けた取組

6 地域連携の推進

- ◆ 切れ目のないリハビリ医療の提供等に向けた急性期病院や地域の医療機関等との連携の強化
- ◆ 住み慣れた地域でのリハビリ医療・福祉サービスの円滑な利用に向けた支援ネットワークの強化

7 地域医療・福祉への貢献

- ◆ 実習生の積極的な受入れ等による医療・福祉関係者の資質向上に向けた支援の推進

8 災害等への対応

- ◆ 訓練やBCPの継続的な見直し等による備えの強化や、医療従事者の派遣等による支援の推進

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の確立

- ◆ 病院部門・施設部門にまたがる取組の充実による効果的・効率的な業務運営
- ◆ 提案制度の活用などによる職員の経営参画意識の向上

2 収入の確保及び費用の削減への取組

- ◆ 医師や療法士の適正な配置によるリハビリ医療の着実な提供
- ◆ 患者ごとの処方的確かな予測等による医薬品・診療材料の適正な在庫管理

第4 予算、収支計画及び資金計画

- ◆ 中期目標期間累計及び各年度における経常収支の黒字確保
- ◆ 計画的な資金管理による経営基盤の安定化

第5～第9 短期借入金の限度額、出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画、重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画、剰余金の使途、料金に関する事項

第10 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 施設・医療機器の計画的な改修・更新整備

- ◆ 施設の状況を踏まえた計画的な改修
- ◆ 地域の医療機関との共同利用も踏まえた医療機器の計画的な更新・整備

2 適正な業務の確保

- ◆ 法令や社会規範の遵守、適切な情報管理及び情報セキュリティ対策の徹底
- ◆ 内部統制の充実

(2) 目標とする指標の実績

指標名			R6(2024) 年度計画		中期計画
			目標値	実績値	目標値
1	リハビリテーション実施単位数（単位）	一般病棟	5.3 以上	5.1	5.3 以上
		回復期病棟	8.0 以上	7.5	8.0 以上
2	発達障害外来受診者数（人）		7,400	8,403	7,400
3	学齢児の心理面接実施件数（件）		500	933	500
4	学校等への外来リハビリテーション実施情報提供件数（件）		65	100	—
5	整形外科手術実施人数（人）		11	17	15
6	重症患者の受入れ割合（％）		45 以上	54.0	45 以上
7	退院後の外来リハビリテーション実施単位数（単位）		2,120	3,741	2,120
8	NST（栄養サポートチーム）の介入件数（件）		25	27	—
9	療法士及び看護師の学会発表件数（件）		7	8	—

指標名	R6(2024) 年度計画		中期計画 目標値
	目標値	実績値	
10 医療安全に関する研修会の実施回数（回）	6	10	6
11 医薬品安全管理研修会の実施回数（回）	5	5	—
12 患者満足度割合（％）	90.0	78.8	90.0
13 退院前在宅訪問指導（家屋調査）件数（件）	60	92	75
14 児童発達支援事業所等を対象とした研修参加人数（人）	100	136	100
15 医療的ケア児の短期入所及び日中一時支援受入れ数（人）	505	520	520
16 自立訓練終了後に一般就労等に移行した利用者数（人）	3	3	3
17 家族会の開催回数（回）	2	2	—
18 認定看護師数（人）	7	8	—
19 医師数（人）	13	15	—
20 療法士数（人）	94	96	94
21 職員満足度割合（％）	90.0	51.4	90.0
22 逆紹介率（％）	55 以上	58.8	55 以上
23 出前講座の実施回数（回）	20	40	20
24 実習生受入れ人数（人）	860	999	1,130
25 保育所等訪問支援事業契約件数（件）	20	32	—
26 BCP に基づく研修・検討会の実施回数（回）	2	2	—
27 病床利用率（％）	86.0	89.0	87.3
28 ジェネリック医薬品使用割合（％）	90 以上	96.5	90 以上
29 経常収支比率（％）	100 以上	101.8	100 以上
30 医業収支比率・修正医業収支比率（％）	73 以上	74.9	75 以上

6 主要器械備品

令和 7(2025) 年 3 月 31 日現在

機器名称	構造又は用途
外科用 X 線 TV 装置、X 線撮影装置、CR 装置、多目的デジタル X 線テレビ装置、全身 X 線 CT 診断装置(64 列型)、磁気共鳴映像撮影装置(MRI)、骨密度測定装置、内視鏡装置、体圧分布測定装置、全自動 PH/ 血液ガス・電解質分析装置、生化学分析装置、脳波計、超音波診断装置、ドライブシミュレーター、ストレングスエルゴ、歩行訓練装置、免架式リフト型歩行器、経皮的筋電気刺激装置（B-SES）、ADL 訓練装置、ADL キッチン、全自動尿中成分分析装置、自動血球分析装置、心電図記録装置、誘発電位・筋電図検査装置、麻酔器、手術台、高圧蒸気滅菌装置、車椅子浴槽、POCT 用遺伝子検査機器（PCR 検査）、拡散型体外衝撃波治療器	医療機器
電子カルテシステム、人事給与システム、調剤支援システム、画像ファイリングシステム	事務機器及び通信機器

7 活動実施状況

(1) とちりハ病院研修会

① とちりハ病院研修会

とちりハ病院研修会は、当センターが取り組む医療や福祉の事業を通じて、スタッフが習得した知識や情報を、介護サービス事業所や障害者支援施設、医療機関など関係機関の皆様へ還元し、障害のある方の生活の質の向上や社会参加に役立てていただくために開催しています。

期日・会場	内 容（講師）	参加者
R6.11.15（金） 栃木県立わかさ特別支援学校 体育館	テーマ：「小児の神経発達症／発達障害」 1 発達障害（神経発達症）の診断と対応（医師） 2 神経発達症における PCIT（親子相互交流療法）導入の試み（医師） 3 心理における未就学児支援～療育と保護者支援（臨床心理士） 4 こども発達支援センター 親子通園での取り組み（保育士）	教育・保育施設 行政機関 児童発達支援事業所等職員 会場参加 133 名 YouTube 配信 視聴者 101 名



研修の様子

② 出前講座

出前講座では、関係団体等の要望に応じて、当センターのスタッフが団体等に出向き希望のテーマに沿った内容で講義をします。

期日・会場	内 容（講師）	参加者
R6.4.16（火） 栃木県シルバー大学校北校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校北校 19 名
R6.4.18（木） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 28 名
R6.4.19（金） 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校南校 25 名
R6.5.15（水） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 30 名
R6.5.15（水） 小山市立乙女小学校	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	小山市ことばを育む親の会 52 名
R6.6.4（火） 鹿沼総合体育館会議室	「高次脳機能障害と自動車運転再開支援」（作業療法士）	栃木県指定自動車教習所協会 84 名
R6.6.5（水） 鹿沼総合体育館会議室	「高次脳機能障害と自動車運転再開支援」（作業療法士）	栃木県指定自動車教習所協会 77 名
R6.6.5（水） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 29 名
R6.6.6（木） 鹿沼総合体育館会議室	「高次脳機能障害と自動車運転再開支援」（作業療法士）	栃木県指定自動車教習所協会 83 名

期 日・会 場	内 容（講師）	参 加 者
R6.6.6（木） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 29 名
R6.6.7（金） 栃木県シルバー大学校南校	「食生活の工夫」（管理栄養士）（リモート）	栃木県シルバー大学校南校 25 名
R6.6.12（水） 特別養護老人ホーム みどり	「在宅医療に活かせる摂食嚥下ケア」口腔ケア・食事介助（認定看護師）	居宅介護支援事業所職員 16 名
R6.6.28（金） コンセーレ3階 中会議室	「移乗介助」（理学療法士）	介護労働安定センター 18 名
R6.7.26（金） 小山市教育委員会	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	小山市教育委員会 21 名
R6.7.29（月） 栃木県立岡本特別支援学校	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	栃木県立岡本特別支援学校 60 名
R6.8.30（金） 特定非営利活動法人うりずん	「食事の問題とその支援」（言語聴覚士）	特定非営利活動法人うりずん 38 名
R6.9.18（水） マドールガーデンあかり	「高齢者の摂食嚥下ケア」～口腔ケアと食事介助～（認定看護師）	マドールガーデンあかり 5 名
R6.9.30（月） 社会福祉法人共生の丘 グループホームオーリー	「摂食・嚥下について」（言語聴覚士）	社会福祉法人共生の丘 グループホームオーリー 8 名
R6.10.15（火） コンセーレ3階 中会議室	「歩行の介助をしよう」（理学療法士）	介護労働安定センター栃木支部 20 名
R6.10.24（木） ハッピーライフめばえ	「移乗介助」（理学療法士）	ハッピーライフめばえ 9 名
R6.11.1（金） 宇都宮市南生涯学習センター	「脳卒中を知ろう（脳卒中の予防）」（認定看護師）	宇都宮市南生涯学習センター 50 名
R6.11.6（水） 居宅介護支援事業所 宮の里	「脳卒中再発予防」（認定看護師）	居宅介護支援事業所 宮の里 13 名
R6.11.6（水） トライ東 宇都宮市青少年活動センター	「在宅高齢者の栄養管理」（管理栄養士）	アール居宅介護支援サービス 6 名
R6.11.12（火） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 38 名
R6.11.18（月） 運動療育センター こどもプラス宇都宮教室	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	運動療育センター こどもプラス宇都宮教室 9 名
R6.11.19（火） 社会福祉法人共生の丘 グループホームオーリー	「歩行介助」（理学療法士）	グループホームオーリー 5 名
R6.11.21（木） こどもスタジオ バンビ	「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」（言語聴覚士）	こどもスタジオ バンビ 10 名
R6.11.29（金） 宇都宮市こども発達支援センター 通園グループ	「発達障害の理解と支援」（臨床心理士）	宇都宮市こども発達支援センター 通園グループ 23 名
R6.12.3（火） エンタメ療育スタジオ Rough&Diamonds	「発達障害児の理解と支援」（臨床心理士）	エンタメ療育スタジオ Rough&Diamonds 11 名
R6.12.6（金） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 22 名
R7. 1.14（火） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 37 名
R7.1.17（金） 宇都宮市こども発達支援センター 通園グループ	「障害児の口腔ケア」（認定看護師）	宇都宮市こども発達支援センター 通園グループ 27 名
R7.1.24（金） うまがみ子ども歯科	「発達障害の理解と支援」（臨床心理士）	うまがみ子ども歯科 12 名

期 日・会 場	内 容（講師）	参 加 者
R 7.1.28（火） はびねす	「発達障害児の理解と支援」（臨床心理士）	はびねす 12 名
R7.2.6（木） （株）クラ・ゼミ コペルハウス宇 都宮駅前教室	「発達障害の理解と支援」（臨床心理士）	（株）クラ・ゼミ コペルハウス宇都宮 駅前教室 7 名
R7.2.18（火） 株式会社 笑顔施	「移乗介助」（理学療法士）	株式会社 笑顔施 10 名
R7.2.27（木） 社会福祉法人共生の丘 グループ ホームオーリー	「日常生活動作～更衣～」（認定看護師）	社会福祉法人共生の丘 グループホーム オーリー 3 名
R7.2.28（金） 栃木県シルバー大学校中央校	「食生活の工夫」（管理栄養士）	栃木県シルバー大学校中央校 20 名
R7.3.12（水） 特別養護老人ホーム うつのみや	「褥瘡と栄養管理」（管理栄養士）	特別養護老人ホーム うつのみや 10 名
R7.3.21（金） 社会福祉法人共生の丘 グループ ホームオーリー	「日常生活動作～口腔ケア～」（認定看護師）	社会福祉法人共生の丘 グループホーム オーリー 2 名

（2） ボランティア受入れ状況

（単位：人）

受入部門	具体的活動内容	実施日	延受入人数	実施団体
障害者自立訓練センター	園芸を通じて障害者の自立に向けた支援を行う。	毎週水曜日	162	とちぎいやしの園芸研究会



「とちぎいやしの園芸研究会」によるグリーンカーテンの設置

(3) 実習生等受入れ状況

(単位：日)

所 属	職 種	内 容	延べ日数					備 考
			R2	R3	R4	R5	R6	
看護部	看護師	小児看護学実習	1	2	89			
		成人看護学実習		12	87			
		老年看護学実習	10	17	154			
		統合実習	32	1	42	32		
		基礎看護学	1	1	17			
		見学実習			32	74	57	
リハビリテーション部	理学療法士	総合実習	63	198	248	202	235	
		評価実習				20	41	
		見学実習						
	作業療法士	総合実習	109	49	110	278	215	
		評価実習	26	44	142	149	203	
		見学実習		20	21	23	16	
	言語聴覚士	総合実習	19	54	55	108	108	
		評価実習			41	17	14	
		見学実習				10	8	
		実務研修			33			
施設部	通園療育課	保育士等		3	4	8		
		歯科衛生士	30	30	28	30		
		言語聴覚士					40	
		見学実習					4	
	入所療育課	保育士等	22					
		看護師						
	自立支援課	介護福祉士等					1	
		福祉体験学習		4				
	計		313	435	1103	951	942	

(4) その他活動状況

① とちリハ提案制度

医療や福祉の質・安全の向上、患者サービスの向上、経営改善につながるアイデアや企画について、職員から提案を受け業務に反映することにより、中期計画の着実な実施の一助とすることを目的とした取り組みです。毎年職員に募集を行い、特に優秀な提案をした職員を表彰しています。

<令和6年度優秀提案>

提 案 内 容	提 案 者
小児患者向け自動販売機の導入	医事課 菊池 亮平
来館者への案内表示の充実	リハビリテーション部 土屋 綾子
ケアワーカーの病棟配置	看護部 小林 晃美 鈴木 朝子 横田 由紀 神田 優香利

(5) 各種委員会・会議

名 称	目 的	実施内容（回数）
管理運営会議	センターの管理運営における重要事項を審議・決定する。	構成員：8名 開 催：月1回
所内連絡会議	管理運営会議での決定事項の伝達及びセンターの管理運営における必要事項の検討を行う。	構成員：46名 開 催：月1回
医療従事者処遇改善委員会	センターに勤務する医療従事者等の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画等の審議を行う。	構成員：10名 開 催：年1回
業者指名選考委員会	調達する物品及び役務の提供又は工事の発注等に係る入札に参加する事業者を審議し選定する。	構成員：4名 開 催：随時
衛生委員会	職員の健康の保持増進や健康障害防止対策等について調査・審議を行う。	構成員：11名 開 催：月1回
研修委員会	職員の職務能力の体系的かつ計画的な育成を図るための研修実施に係る事項について審議を行う。	構成員：10名 開 催：年4回
倫理審査委員会	職員から申請された医療行為及び臨床研究に係る臨床研究計画並びにそれらの成果の公表内容について審査を行う。	構成員：5名 開 催：随時
広報委員会	センター広報紙、ホームページ等の企画、編集、発行に関することを審議し実務を行う。	構成員：14名 開 催：月1回
情報システム管理委員会	情報システム機器の適切な導入、修繕、改良又は管理運用等に関して審議・決定する。	構成員：8名 開 催：年1回
苦情等対応委員会	センターの信頼及び適正性を確保するため、利用者等の苦情等を円滑に解決するための方策について協議・処理を行う。	構成員：7名 開 催：随時
診療報酬等改善・診療情報管理委員会	診療報酬の算定、請求事務の適正化等保険診療に関する諸問題について審議を行い、疾病統計の報告を行う。	構成員：19名 開 催：年6回
医療安全管理委員会	医療安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議を行う。	構成員：11名 開 催：月1回
リスクマネジメント委員会	アクシデント・インシデント事例の原因分析を行い、当該事象の再発防止等の協議を行う。	構成員：21名 開 催：月1回
感染対策委員会	院内感染の未然防止及び発生時の迅速かつ適切な対処を行う。	構成員：32名 開 催：月1回
感染性廃棄物管理委員会	感染性廃棄物の適正な処理を確保するために必要な事項を検討・決定する。	構成員：20名 開 催：年1回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保のための対策を講じる。	構成員：21名 開 催：年1回
医療機器安全管理委員会	医療機器の安全管理を図り患者の安全を確保するための対策を講じる。	構成員：20名 開 催：年1回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発生防止のための体制を整備するとともに、褥瘡発生時に速やかに対策できるよう協議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
臨床検査適正化委員会	臨床検査の適正な管理および効果的な運用等に関して検討を行う。	構成員：9名 開 催：年3回
手術・輸血療法委員会	手術及び輸血療法の適正な運営及び安全管理体制等に関して審議を行う。	構成員：14名 開 催：年1回
薬事委員会	医療の質の向上を目的に、採用医薬品の採用や削除、適正な管理等に関して審議を行う。	構成員：8名 開 催：年4回
栄養管理委員会	栄養サポートチーム（NST）を含む栄養管理業務および給食業務の円滑かつ効率的な運営を図るため審議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
入院審査会	医療センターにおける入院申し込み患者についてICFに基づき、入院の適否等に関して協議を行う。	構成員：11名 開 催：週1回
障害者自立訓練センター利用判定委員会	障害者自立訓練センターにおける自立訓練サービスの利用希望者の利用の適否の判定を行う。	構成員：13名 開 催：随時
医療放射線管理委員会	診療放射線の安全利用に係わる管理のため検討を行う。	構成員：4名 開 催：年1回
防災委員会	各種災害が発生した際、患者・利用者・職員等の安全を確保するための防災 対策・減災対策の検討を行う。	構成員：7名 開 催：随時
倫理委員会	医療・ケアチームから申請された医療・ケアの方針決定に係る検討及び助言を行う。	構成員：7名 開 催：随時
身体拘束等適正化検討委員会	栃木県立リハビリテーションセンターにおける入院患者に係る身体拘束等の適正化を図る。	構成員：7名 開 催：月1回

.....

2 医療センター

脳血管疾患、脊髄損傷、骨・関節疾患の主として回復期の患者や小児神経疾患、小児整形外科疾患などの重度の障害を持つ者に対して、専門かつ高度のリハビリテーション医療を行うとともに、小児科治療、整形外科の手術治療を行っています。

- ① 主に運動器に障害のある乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- ② 「疾患や障害を診るのではなく患者を診る」という精神で治療に当たります。
- ③ リハビリテーション医療は原則として短期・集中型とします。
- ④ 診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努めます。また、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。

外来部門では、主にリハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科の診療を提供します。また、心身障害児の早期診断、早期治療に努めるとともに、地域療育推進事業や身体障害者自立支援事業に対する援助を行っています。

入院部門では、回復期リハビリテーション病棟である5階及び6階病棟は、リハビリテーション科、整形外科、神経内科の連携のもと、回復期リハビリテーションの充実に努めています。4階病棟では、整形外科で体幹・四肢の機能改善を図るとともに、障害児の感染症治療や小児神経疾患に対する小児科診断・治療を行います。リハビリテーション科、神経内科では脳血管障害等のリハビリテーションも実施します。また、一般病棟の特性を生かして、回復期リハビリテーション病棟の対象外の下肢骨折・上肢骨折や回復期リハビリテーション病棟の入棟期限を過ぎた患者のリハビリテーションも行います。

① 病床

4階病棟 40 床 5階病棟 40 床 6階病棟 40 床

常 設：リハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科

非常設：消化器内科

每週火曜日

菌 科

每週火・金曜日

泌尿器科

毎月第2金曜日・第4金曜日

皮膚科

每月第2个星期日

耳鼻いんこう科

每月第4水曜日

眼 科

每月第4月曜日

2 各診療科（常設科）

（1）リハビリテーション科

概要

脳血管性の病気等を原因として生じた、主に回復期（発症から1～6カ月）の運動障害や言語障害等に対して診断と治療を行っています。患者の機能を評価し、今後の予測や訓練の目標を設定し、患者を中心としたチーム医療を推進しています。

回復期リハビリテーションにおける入院患者に対して、社会復帰後の日常生活を想定した具体的なリハビリテーションを集中して行っています。高血圧・糖尿病等の合併症に対する治療・指導も合わせて行っています。嚥下障害に対して、嚥下造影検査（VF）を行っています。高次脳機能障害を有する脳外傷患者等に対して高次脳機能障害支援拠点機関として入院治療を行っています。

また、外来では筋痙縮に対するボツリヌス療法も実施しており、車椅子（シーティング）外来では、座位保持装置・車椅子の提供に努力しています。高次脳機能障害患者に対しては作業療法士と失語症患者に対しては言語療法士とともに治療を行っています。障害者手帳意見書・障害年金診断書の作成、脳血管疾患患者を中心とした装具作成も行っています。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

理事兼医療局長兼診療部長（地域医療連携室長事務取扱）：船越 政範

副主幹兼リハビリテーション科長：鈴木 尚

副主幹兼リハビリテーション科医長：中澤 征人

リハビリテーション科医師：川澄 沙帆

活動実績

入院外来での診療の外に、月2回の障害者自立訓練センター（駒生園）におけるリハビリテーション科所内診察を行っています。障害者総合相談所の補装具担当から適宜相談を受けて、所内判定に参加し、高次脳機能障害支援拠点機関からの外来相談を適宜受け、精神保健福祉手帳意見書、障害年金意見書の作成を行っています。とちぎ高次脳機能障害友の会の顧問として、総会、講演会に参加しています。

今後の方向性

栃木県内のリハビリテーション科専門医41名のうち、栃木県立リハビリテーションセンターに5名が常勤で勤務し、リハビリテーション科専門医の自治医科大学・獨協医科大学・東京慈恵会医科大学の認定研修プログラムの研修施設として登録しています。リハビリテーション科の専門性を生かした施設として活動してきたいと考えています。

(2) 小児科

概要

小児科は、小児神経疾患全般にわたる診断治療と療育に携わっています。患者の主な疾患は、神経発達症（発達障害）では自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症で、他には脳性麻痺などの小児の運動障害や小児てんかんの治療、神経筋疾患や代謝性疾患などがあります。遺伝に関連する疾患の診断やカウンセリングも行っています。内服治療や療育・リハビリテーションなどを個々の症状に合わせて提供するように心がけています。

また、こども発達支援センターでは医療・福祉型の通園や卒園した子ども達へのフォローアップを、こども療育センターでは入所のほか日中一時支援や短期入所を、病棟入院では急性期を脱した後の短期・集中的なリハビリテーションや在宅移行支援などを行っています。必要に応じて、扁平足や側弯のご相談なども、院内の整形外科やリハビリテーションの専門医などと連携し行っています。小児科は様々な分野を含む診療であるため、単なる疾患の診療や治療・訓練・療育などだけではなく、患者とその家族が抱える多面的な問題を、当センターのスタッフだけでなく、地域・学校との協力関係の中で解決・軽減するよう努めております。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

所長：山形 崇倫

副主幹兼小児科長：桑島 真理

小児科医長：黒川 愛恵

小児科医師：若江 恵三

活動実績

外来の診療では、月に延べ500件の定期的な診察と、月に約50例の初診患者の診療を行っています。週に1回はリハビリテーション部門とのカンファレンスを行い、個々のケースに応じた検査や治療の方向性をチームで検討しています。令和6年度より、親子相互交流療法（PCIT）を導入しました。

また、地域療育支援事業として年に2回の研修会で、発達障害や療育・リハビリテーションなど幅広いテーマに関する講演会を実施し、教育機関との連携事業として医療連携外来を個々のケースに対して行い、療育・教育の現場との連携に努めています。他にも、障害者手帳意見書、障害年金診断書の作成などを行っています。

人材育成への取り組み

自治医科大学の「小児神経専門医」研修認定施設となっており、小児神経専門医を取得するために必要な経験を積むことが可能です。令和元（2019）年度からは自治医科大学小児神経科から定期的に診療の援助を頂きつつ、小児神経専門医取得を目指している若手医師が研鑽を積めるよう教育体制を整えています。

また、自治医科大学子どもの心の診療科と連携し、令和5（2023）年度から「子どものこころ

専門医」の研修連携施設となりました。子どもの心の発達を学ぶ施設としての教育体制も整えています。

実習生受入れ状況

小児科専門医・指導医が常勤しており、自治医科大学臨床研修センターや小児科学講座からの研修医の実習受け入れ体制が整っています。小児科および小児神経領域に興味のある医学生や医師の見学も受け入れています。

今後の方向性

現在も、紹介を受けるのは医療機関のみならず、市町村、健康福祉センター、教育機関など多方面にわたっていますが、今後はさらなる地域連携の強化を目標として、地域療育支援における活動を増やしていくと共に、県内の多様な療育や教育の現場で、小児神経科専門病院として積極的に相談・指導に応じ、連携を図っていきたいと考えています。また、「小児神経専門医」および「子どものこころ専門医」の自治医科大学の研修認定施設として登録されており、小児神経科の専門性を生かした施設として活動していきます。

(3) 整形外科

概要

整形外科は、頭部を除く骨・関節・筋肉などの運動器に生じる痛み、変形、機能障害を対象とする診療科です。骨折などの外傷、関節リウマチや変形性関節症、脊椎・脊髄疾患、代謝性疾患、小児整形、麻痺に対する機能再建など幅広く対応し、チーム医療による総合的な治療とリハビリテーションを提供しています。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

医務課長兼整形外科長：石川 義久

副主幹兼整形外科医長：石塚 謙

整形外科医長：林 志賢

整形外科医師：朝田 淳史

活動実績

■ 小児整形外科手術の積極的な実施

脳性麻痺に伴う足部変形にはアキレス腱延長術を、脚長不等には大腿骨・下腿骨の延長術を、臼蓋形成不全にはトリプル骨盤骨切り術を行うなど、症状に応じた専門的手術を実施しています。

■ 先進的なリハビリテーション技術の導入

機能的電気刺激装置（FES）やロボット支援機器を活用した先進的なリハビリテーション技術を導入し、術後早期や障害児への外来リハビリテーションも積極的に展開しています。

■ 入院患者への包括的リハビリテーションの提供

多発骨折や大腿骨頸部骨折、人工関節置換術後の患者に対し、運動器および回復期リハビリを提供。専門スタッフが評価と目標設定を行い、在宅・社会復帰を支援しています。

■ 義肢・装具の適合支援と装具外来の運営

四肢切断に対する義肢の作製と訓練を行い、装具外来ではQOL向上を目的に補装具の提供に取り組んでいます。

■ 小児へのボツリヌス療法と集中的機能訓練

痙性・変形・拘縮など運動発達を阻害する要因に対し、ボツリヌス療法や手術を行い、当院の先進的なリハビリテーションと組み合わせることで本来の運動機能を引き出しています。

■ 地域支援および教育機関との連携

栃木県障害者総合相談所の巡回相談に年2回参加し、専門的支援を実施。栃木県立衛生福祉大学校では看護学科の講義を担当し、医療人材の育成にも力を入れています。

今後の方向性

多様化するニーズに応え、質の高い機能回復支援と安全な医療提供を継続していきます。自治医科大学小児整形外科との連携をさらに深め、地域における連携体制を強化します。また、潜在的なニーズに応じた手術件数の増加を図るとともに、職員教育やリスク管理にも引き続き力を注ぎます。

(4) 神経内科

概要

脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患および脳・脊髄・末梢神経障害に伴う神経内科的疾患の入院および外来リハビリテーションを行っています。2019年3月に栃木県難病医療協力病院に指定され4月より神経難病外来を開設し、周辺の医療機関との連携の元に神経変性疾患等の外来リハビリテーションを行っています。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

副主幹兼神経内科長：近藤 総一

副主幹兼神経内科医長：三浦 久美子

神経内科医長：江面 道典

活動実績

入院では、脳血管疾患患者を中心に年間120症例以上を扱っており、全身管理およびリハビリテーションの処方・指導や補装具の処方・調整、他部署との勉強会などを行っています。神経内科的疾患の入院は年度によりややばらつきがありますが、概ね年間10例以上の入院があります。ギラン・バレー症候群や慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）などの末梢神経障害や視神経脊髄炎、神経サルコイドーシスなどの神経免疫疾患、パーキンソン病の急性増悪による入院リハビリテーションがありました。また、パーキンソン病患者のご家族のレスパイトを兼ねた入院リハビリテーションを行いました。

外来では、医療保険によるリハビリテーション対象神経難病患者の診察およびリハビリテーション処方、自助具や補装具の紹介・作成を行っています。疾患は多岐にわたっており、神経変性疾患のパーキンソン病や多系統萎縮症、ハンチントン舞蹈病、遺伝性脊髄小脳変性症、筋強直性ジストロフィー、脱髄性疾患の多発性硬化症、末梢神経障害のシャルコー・マリー・トゥース病などがあります。また、脳損傷患者の自動車運転再開支援なども行っています。

日本神経学会および日本リハビリテーション医学会を中心に定期的に学会発表を行っています。

今後の方向性

当院は医療保険によるリハビリテーションのみを行っている事もあり、全身の機能が低下するような神経難病患者の多くは病状の進行と共に介護を必要とし、介護保険によるリハビリテーションに移行していく事が多いのが現実です。今後は回復期のみならず維持期および生活期のリハビリテーションを展開していけるように、短期入院等の拡充をはかっています。その他地域のニーズを的確に捉え、今後さらに増加する高齢者の健康をリハビリテーションの面からサポートしていきます。

3 地域医療連携室

概要

地域医療連携室は、室長（医師）と医療ソーシャルワーカー 4 名で対応しています。

主な業務は医療機関からの入院相談、入院患者に対する退院支援になります。病棟でのカンファレンスへの参加、本人・家族との面談を通して適切な場所へ退院できるように調整しています。

その他、医療福祉相談として入院患者・外来患者の療養上の困りごとに対しての相談の対応をしています。

1 入院相談

入院相談の窓口として、地域の医療機関の先生方、介護保険関連機関、医療福祉関連機関と連携をはかり、円滑な転院、入院できるように調整します。

2 退院支援

当センターに入院してから退院されるまで、患者さんやご家族が安心して生活が出来るよう退院後を見据えながら継続的に関わり、退院先を検討するにあたり、院内の多職種と協働して支援させていただきます。必要なサービスや諸手続き、社会資源について情報提供を行います。必要に応じて地域の関係機関と連携し、退院後の生活につなげます。

3 医療福祉相談

病気や怪我をきっかけとして生じた経済的・社会的・心理的な困りごとを、患者さん・ご家族が解決できるよう支援させていただきます。医療・福祉・介護の制度や医療機関、介護保険施設等についての情報提供を行い、必要に応じて連携を取らせていただきます。

4 地域連携活動

医療・介護や障害の関係機関の方々、障害者総合相談所（栃木県高次脳機能障害支援拠点機関）などの情報交換を通し、地域の関係機関と顔の見える連携の推進に努めています。

スタッフ紹介（令和 7 年 4 月 1 日現在）

理事兼医療局長兼診療部長（地域医療連携室長事務取扱） 船越 政範

他 看護師 1 名 社会福祉士 3 名

活動実績

1 月別相談件数

(単位：件)

	R2	R3	R4	R5	R6
実人員	2,243	2,085	2,168	2,232	2,665
件 数	13,037	12,981	13,574	13,089	12,390

※入院・外来患者の電話・面接、院内及び関係機関との連絡調整、病院利用及び入院の照会等の件数を計上

2 カンファレンス等参加件数

(単位：件)

	R2	R3	R4	R5	R6
カンファレンス	603	591	605	675	718
入院時合同評価	466	408	448	475	493

人材育成への取り組み

栃木県医療社会事業協会、日本医療ソーシャルワーカー協会、回復期リハビリテーション病棟協会など主催の研修会に積極的に参加し、知識や技術の習得・自己研鑽に努め、また、市町・関係機関主催の連携会議や研修会に参加し、関係機関との関係作りに努めています。

今後の方向性

- ・適切な時期に適切なリハビリテーションを受けられるよう、入院相談に応えます。
- ・患者さんの状態と環境に合わせた支援ができるよう、入院時評価やカンファレンスを通して院内他職種と共同して支援に努めます。
- ・地域研修会への参加や退院後の状況確認を通して、地域の医療・福祉・介護の関係機関と連携関係を構築し、社会資源を活用できる体制を整えることで、患者さんが退院後も安心して生活できるように支援していきます。

4 薬剤科

概要

薬剤科は、外来及び入院調剤、医薬品管理、医薬品情報管理・提供、薬剤管理指導などの業務を実施しています。

調剤業務は、調剤支援システムを活用し、外来及び入院処方について調剤を行っています。調剤時には薬歴に基づいた処方鑑査を行い、患者個々に対応したオーダーメイド調剤を実施しています。

具体的には、嚥下困難患者や経管栄養患者のために錠剤の粉碎や多種の散剤を混合するなど、個々の患者のニーズに合わせて服用しやすいよう心がけています。また、入院患者については原則一包化調剤を実施しています。注射薬は、内用薬等と同様に注射処方箋の処方鑑査を行い、患者ごと個別に取り揃えています。

薬剤管理指導業務については、入院時に患者に聞き取りおよび服薬指導を行い、持参薬について鑑別、薬剤服用歴を把握し、精査しています。当センター採用薬への切替時や処方変更時には必要に応じて服薬指導を行っています。また、入院中に薬の自己管理に向けての指導を行い、退院時服薬指導で患者が退院または転院後、適切に服薬管理出来るよう心がけています。

薬品管理については、物流管理システムにより医薬品供給と発注業務を一元化して在庫管理の効率化を図り、管理の適正化に努めています。さらに、保存条件に注意して使用期限などの品質管理を行っています。

また、医療費削減のために後発医薬品の使用促進を積極的に進めており、採用に当たっては、医療安全の面から品質等が適切であるか、安定供給が可能かなどについて十分に検討しています。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

副主幹兼薬剤科長：宮下 直子

他、薬剤師3名、業務嘱託員1名

活動実績

過去5年間の活動実績

年 度			R2	R3	R4	R5	R6	
内 用 ・ 外 用	入 院	処方せん枚数（枚）	12,488	11,143	12,070	12,830	14,120	
		調剤件数	40,023	37,830	40,691	49,337	51,985	
			内服件数（件）	36,627	34,530	37,011	45,412	47,593
			外用件数（件）	3,396	3,300	3,680	3,925	4,392
		調剤延剤数	265,898	252,548	270,929	327,105	348,107	
	外 来	処方せん枚数（枚）	4,279	4,483	4,955	5,082	5,313	
		調剤件数	8,147	9,221	10,629	10,686	11,097	
			内服件数（件）	7,165	8,266	9,527	9,587	9,945
			外用件数（件）	982	955	1,102	1,099	1,152
		調剤延剤数	329,602	373,456	423,421	444,500	473,076	
合 計	院外処方せん発行枚数（枚）	106	141	217	223	228		
	処方せん枚数（枚）	16,767	15,767	17,025	18,135	19,433		
注 射	入 院	調剤数	48,170	47,051	51,320	60,023	63,082	
		注射処方せん枚数（枚）	1,814	2,269	3,498	4,563	5,037	
	外 来	件数（件）	2,030	2,553	4,024	5,591	5,949	
		注射処方せん枚数（枚）	352	228	248	252	243	
	合 計	件数（件）	352	229	248	254	243	
		注射処方せん枚数（枚）	2,166	2,497	3,746	4,815	5,280	
	件数（件）	2,382	2,782	4,272	5,845	6,192		
服薬指導件数（入院患者対象）			40	46	509	781	1,332	
持参薬管理件数（件）			572	501	570	559	578	
後発品使用割合（％）			88.0	92.1	92.1	96.8	96.5	

今後の方向性

心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の患者に対し、薬学的観点から個々の患者の状態に応じた調剤を行っていきます。また、病棟での服薬指導を充実し、他院からの円滑な入院時服薬管理や退院後の的確な自己服薬管理に向けた患者への支援に努めます。

医薬品の有効性・安全性及び供給の安定性等に留意しつつ、後発医薬品の調剤割合の向上に努め、患者の経済的負担及び医薬品費のさらなる軽減を図ります。

5 検査科

概要

検査科では、外来及び入院患者の検体検査、生理検査を実施しています。

検体検査では、内部精度管理を実施するとともに、日本臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査、栃木県臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査及び各試薬メーカーの精度管理調査に参加し、検査結果の精度・基準を維持するとともに質の向上に努めています。

実施する検査項目は、重要性・緊急性およびコスト等を検討し随時見直しを行っています。

また、検査業務の他にＩＣＴ（感染制御チーム）のメンバーとして、付加価値の高い情報提供に努めながら臨床支援も行っています。

スタッフ紹介（令和７年４月１日現在）

副主幹兼検査科長：菊池 史江

他 臨床検査技師 ３名

活動実績

年度別検査 項目数

年 度		R2	R3	R4	R5	R6
検体検査	一般検査	11,074	11,026	11,602	11,432	11,593
	血液検査	18,854	18,601	20,597	19,972	19,495
	生化学検査	31,156	30,236	33,885	32,862	33,478
	血清検査	2,369	2,320	2,614	2,772	2,953
	輸血検査	18	20	15	24	46
	遺伝子検査		216	1,962	1,923	640
	細菌検査	306	294	368	384	405
	外注検査	2,092	2,087	2,656	2,541	2,459
	検体検査計	65,869	64,800	73,699	71,910	71,069
	心電図検査	589	547	589	573	583
生理検査	負荷心電図検査	62	16	23	17	8
	ホルター心電図	6	4	12	12	13
	呼吸機能検査	10	16	8	20	34
	脳波検査	49	51	45	47	30
	聴性脳幹検査		2			
	神経伝達速度検査	32	4		4	
	超音波検査	66	45	153	429	334
	生理検査計	814	685	830	1,102	1,002
計		66,683	65,485	74,529	73,012	72,071

人材育成への取り組み

日本臨床衛生検査技師会・栃木県臨床衛生検査技師会、他の学会主催の研修会及び学会、検査機器や試薬メーカー主催の研修会などに積極的に参加し知識及び技術の習得に努めています。

今後の方向性

迅速で正確な臨床検査データの提供を第一に考え、医療サービスの向上に努力していきます。
各診療科からのニーズに応えられるよう、知識及び技術の習得に努めていきます。

6 放射線科

概要

放射線科は、主に脳血管疾患、脊髄損傷、変形性股関節症、脳性麻痺・精神運動発達遅滞等の疾患児者の外来、入院、術前・術中・術後管理に必要な各種画像診断検査業務を実施しています。また、障害者自立訓練センター（駒生園）の入所者や県内特別支援学校在校生の結核検診、職員特殊健康診断（頸椎・腰椎病）等の撮影業務を実施しています。

当センターでは、患者が一人での更衣が困難な場合や検査台への移乗が困難な場合は、技師や看護師が介助を行っています。

緊張の強い脳性麻痺疾患児者の全脊椎立位撮影・足部荷重時立位撮影等には、2名の技師がチームを組んで撮影に対応しています。

重度障害児者、乳幼児、知的障害児者のMRI検査は、催眠鎮静薬を使用して熟睡した状態で検査を行っています。そのため検査時間枠内に終了しないことや中止になることもあります。

画像診断装置は一般撮影装置をはじめ、MRI（1.5T磁気共鳴イメージング装置）、CT（64列断層撮影装置）、多目的X線TV装置、骨密度測定装置、CR装置、パントモ装置等を設置しています。

また、令和2年10月から開始したMR・CT等の共同利用は、地域医療機関の診療業務の充実に寄与しています。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

診療技術課長兼放射線科長：米田 純子

他 診療放射線技師 2名

活動実績

過去5年間の活動実績

(単位：件)

		R2	R3	R4	R5	R 6
X線撮影	入院	1,804	1,644	1,409	1,274	985
	外来	801	793	907	1034	1198
	計	2,605	2,437	2,316	2,308	2,183
MRI 検査	入院	188	152	154	98	80
	外来	118(74)	197(161)	235(183)	300(239)	302(243)
	計	306(74)	349(161)	389(183)	398 (239)	382 (243)
CT 検査	入院	496	412	530	512	477
	外来	38(12)	74(23)	142(30)	131(46)	149(54)
	計	534(12)	486(23)	672(30)	643(46)	626(54)
骨密度	入院	319	321	336	272	314
	外来	57	32	45	62	36
	計	376	353	381	334	350
X線透視	入院	26	19	39	19	28
	外来	3	1		3	1
	計	29	20	39	22	29
パノラマ	入院	9	3	15	11	9
	外来			1	3	2
	計	9	3	16	14	11
ポータブル	入院	67	78	80	78	107
	外来	1	2			
	計	68	80	80	78	107
検診	入院					
	外来	42	30	23	30	31
	計	42	30	23	30	31
CD コピー	入院	653	451	566	605	729
	外来	299	496	498	548	553
	計	952	947	1,064	1,153	1,282
読影依頼		213	315	419	440	510

() 内は共同利用の再掲

人材育成への取り組み

学会や、院外の研修に参加し、新しい知識や技術を習得し、自己研磨に努めています。

今後の方向性

患者の障害の状況に合わせて安全で安心な検査が出来るよう心がけていきます。

また各種研修会に参加し、診断価値の高い画像を提供することに努めていきます。

7 栄養科

概要

栄養科では、入院患者等の病態及び障害やリハビリテーションによる活動量を考慮した栄養管理業務、入院患者等への安全で個々に見合った適切な食事の提供を行う給食管理業務を行っています。

栄養管理業務では、栄養サポートチーム（NST）の事務局として多職種共同による栄養管理の調整を担うとともに、リハビリテーションによる活動量や疾患、摂食嚥下状態を考慮した栄養状態の評価検討を行い、患者個々に見合った栄養管理により、FIM 向上に努めています。

また、退院後の生活を見据え、栄養指導を通し、退院後も実行可能な方法を一緒に考え提案することにより、患者自らが「食事療法」の重要性を理解し、自己管理能力を高めることができるよう支援しています。

給食管理業務では、毎日の食事が患者の ADL の向上や健康づくりに寄与できるよう、臨床栄養学に基づく栄養管理の下、季節感のある食材を活かした献立や衛生的な調理・盛り付けにも配慮し、適時・適温配膳を行い安全で美味しい食事となるよう努めています。

スタッフ紹介（令和 7 年 4 月 1 日現在）

副主幹兼栄養科長：柴田 純美

他、管理栄養士 2 名

活動実績

1 多職種連携による栄養管理の実施

栄養カンファレンス、入院時合同評価、リハカンファレンス、個別支援会議、V F 検査等により、患者の栄養状態や摂食嚥下機能などを多職種で評価検討を行い、栄養管理計画やリハビリテーション総合実施計画に基づく適切な栄養管理を行いました。

2 栄養サポートチーム（NST）活動

入院患者の栄養管理を専門的かつ的確に行い、リハビリテーションの効果を向上させることを目的に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士で構成する栄養サポートチーム（NST）を設置し、令和 4 年 4 月より活動を開始しました。

入院患者 16 名、延べ 27 件に対し、経口摂取量改善や体重減少への対応、嚥下障害に対する食形態評価等の介入を行いました。

3 栄養指導

入院及び外来患者などに対し、166 件の個別栄養指導を行いました。疾患別指導件数は糖尿病 40 件、脂質異常症 32 件、高血圧症 56 件、心不全・腎不全・嚥下障害・高度肥満各 6 件、低栄養 5 件、その他 9 件でした。

障害者自立訓練センター（駒生園）入所者、こども発達支援センター通園児の保護者を対象とした集団栄養指導も行いました。

4 食事の提供

入院患者や入所児者、通所通学児へ年間合計 151,115 食の食事の提供を行いました。食事の提供に当たり、個々の栄養状態を評価し、疾患やリハビリテーションに見合った食事の提供を行いました。

また、ミールラウンドを通して、食形態や食物アレルギー、嗜好などの聞き取りを行い、個々に合わせた食事の提供に努めました。

5 チーム医療への参画

栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、骨折予防チームメンバーとして活動しました。

6 食事の満足度向上のための取り組み

食事が治療の一環であることや提供されている食事内容の理解を図るため、入院時に患者へ食事内容の説明を実施しました。

7 嗜好調査の実施

入院患者及び障害者自立訓練センター（駒生園）入所者を対象に実施しました。（回収率 98.0%）。

食事の満足度（「満足」「やや満足」と回答した割合）は 80.8%でした。

また、こども療育センター入所児を対象に食事のアンケートを実施しました。

8 講師対応

「とちリハ病院研修会」出前講座にて、13 講座の講師を担当しました。

人材育成への取り組み

日本栄養士会、栃木県栄養士会、全国自治体病院協議会などの主催する学会や研修会での発表や参加を通して、専門的な知識や技術を習得し、自己研鑽に努めています。

今後の方向性

1 栄養サポートチーム（NST）活動の推進

栄養サポートチーム（NST）の活動を推進し、多職種連携による栄養管理体制の強化を図り、より効果的なリハビリテーションを実施していきます。

2 安心安全でより美味しい食事の提供

衛生管理や食の安全に考慮した食事提供及び嗜好調査や患者満足度調査結果等を考慮し、より食事の満足度を向上できるよう所内多職種で連携を図り検討を行います。

3 退院後の療養への支援

退院後の再発を防止し、健康管理を図ることができるよう、積極的に入院栄養食事指導を行い指導件数の増加を図ります。

8 リハビリテーション部

概要

リハビリテーション部は、入院および外来患者に対し、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を行います。疾患の特性に応じたきめ細やかなプログラムを心がけ、各種リハビリテーション機器を用いるなど質の高いリハビリテーションの提供に努めています。

一般病棟、回復期病棟の入院患者に対しては、365 日リハビリテーションを多職種協働のもと実施しています。機能的な回復を目指しつつ、在宅生活にスムーズに移行できるよう家族への介助指導や退院前訪問などの退院支援も積極的に行っています。

令和4年度に新設された外来療法科においては、小児、難病、高次脳機能障害など幅広い疾患に対し、専門的なリハビリテーションを提供します。また、退院後の患者に対するリハビリテーションの充実にも取り組んでいます。

その他、地域支援として出前講座、養成校からの実習生受け入れ等にも力を入れています。

<理学療法科>

脳血管疾患や運動器疾患等の患者に対し、基本的動作能力の回復や日常生活動作の改善を図ります。寝返り、起き上がり、移乗、立ち上がり、歩行等の能力を評価分析して、運動療法を中心とした理学療法を行っています。症例検討会や科内研究発表会、科内学習会を積極的に活用し、専門性の向上に努めています。

<作業療法科>

より具体的な生活をイメージし、心身機能や基本的動作能力の改善を図り、日常生活動作の獲得を目指します。上肢機能に関しては、機器や自主訓練を活用し生活場面でできることを増やす取り組みを行います。

また、退院後の生活を見据えて家事などの応用的動作の練習や住環境の整備を行っています。必要時には復職や社会参加に向けての支援も行います。

<言語療法科>

主に失語症・高次脳機能障害の患者を中心に、機能回復や代替手段獲得へのアプローチを実施しています。また、嚥下障害のある患者に対しては、摂食機能療法を実施しています。機能回復への働きかけのほか姿勢の調整や食形態の選定を行い、他職種と協力しながら安全に食事がとれるよう支援しています。

<外来療法科>

外来では、小児から成人まで幅広く対象としていますが、6割程度が18歳未満の小児となっています。小児に対しては、遊びを含めた作業活動や課題を通し、基本的動作能力やコミュニケーションなどの発達を促しています。身体状況に合わせた車いすや座位保持装置作製などシーティングへの関わりも行います。また、お子さんの在籍する保育園や幼稚園、学校等とも情報交換をしながら連携を図っています。

成人に対しては、在宅生活へのスムーズな移行を目的に、退院後のフォローアップに力を入れています。失語症、高次脳機能障害に対しては継続的なリハビリテーションを提供し、必要に応じドライビングシミュレーターを用いた運転能力評価も行います。

成人では、退院後の生活の安定を目的に、退院患者へのフォローアップにも取り組んでいます。

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

リハビリテーション部長 和久井 千夏子

リハビリテーション部副部長兼自立訓練科長 長崎 隆司

リハビリテーション部副部長 土屋 綾子

副主幹兼外来療法科長 徳淵 光康

理学療法科長 稲村 恵理子

作業療法科長 渡辺 美和子

言語療法科長 亀田 真弓

他 理学療法士 40名

作業療法士 33名

言語聴覚士 13名

リハビリテーション実施単位数

（1単位＝20分）

		R2	R3	R4	R5	R6
理学療法	入院	110,729	100,110	114,423	116,300	110,817
	外来	6,416	6,824	7,262	8,158	10,117
	計	117,145	106,934	121,685	124,458	120,934
作業療法	入院	104,145	94,703	87,077	90,495	111,324
	外来	4,109	4,376	5,739	7,803	8,657
	計	108,254	99,079	92,816	98,298	119,981
言語療法	入院	40,272	36,883	36,194	37,773	39,860
	外来	2,795	2,635	3,544	6,058	7,794
	計	43,067	39,518	39,738	43,831	47,654

人材育成への取り組み

リハビリテーションサービスの充実を目的として、職員の採用を進めるとともに、新採用職員教育プログラムを体系化し、教育面の強化を行っています。新人向けのみならず、経験のある職員についても経験年数別の到達目標を掲げ、職員に自己研鑽を促すとともに、院外研修を含めた段階別研修の履修をすすめています。また、小児や自立支援など幅広い分野に強い療法士を育成するため、施設部とも連携して勉強会等を行っています。業務面においては、チーム制をとり、スタッフ全体でチーム内の患者を担当できるよう、経験年数に関係なくお互いにフォローし合う体制作りに努めています。

各療法士協会で実施している生涯学習制度やその他関係する協会の認定制度への参加を推奨

し、リハビリテーション専門職としての成長をサポートします。

また、各種学会参加・研究活動を通しより専門性の高い人材の育成を目指しています。

・認定資格取得者

理学療法士協会	認定理学療法士	2名	中山 瑞恵	駒形 孝大
言語聴覚士協会	認定言語聴覚士	1名	亀田 真弓	
回復期リハビリテーション病棟協会	回復期セラピストマネージャー	5名		
長崎 隆司	土屋 綾子	稲村 恵理子	亀田 真弓	渡辺 美和子

実習生受入れ状況

令和6年度は県内2カ所、県外2カ所の養成校から、総合実習、評価実習、見学実習として3科合計延べ840人の受け入れを行いました。将来のリハビリテーションを担う人材の育成に努めるため、多数の職員が臨床実習指導者講習会を受講し指導にあたっています。

令和6（2024）年度 実習受け入れ

療法科	種別	養成校	実人数	延べ日数
理学療法科	総合実習	A	1	83
		B	1	56
		C	2	96
	評価実習	A	1	20
		B	1	21
作業療法科	総合実習	A	4	158
		B	1	57
	評価実習	A	7	147
		B	2	56
	見学実習	B	16	16
言語療法科	総合実習	A	1	54
		D	1	54
	評価実習	A	4	14
	見学実習	A	1	8

今後の方向性

リハビリテーション部では、センター中期計画に沿って、計画達成に向けて取り組んでいます。

今後の充実したリハビリテーションサービスの提供・経営改善にむけ、状況に応じた柔軟な人員配置や運営方法、体制構築のために必要な人員の確保と育成を行っていきます。

引き続き、入院患者の早期の生活能力向上を実現すべく、リハビリテーションのさらなる質的向上を目指すとともに、退院後の支援のあり方についても検討していきます。

9 看護部

概要

看護部は、乳幼児から高齢者まで様々な障害をもつ患者や利用者に対し、QOL向上を支援し、家庭や職場、地域社会での自立に向けて、継続看護をしています。また、リハビリテーション医療を提供する専門職種チームの一員として知識・技術を高め、良質な看護の提供に努めています。

部 署		業務の概要	勤務体制
病 院 部 門	外来 常設4科 非常設7科	障害を有する乳幼児から高齢者へのリハビリテーション、小児神経疾患全般にわたる診断治療と療育を専門とした外来。患者・家族・利用者の一人ひとりのニーズに応じた支援を行い、地域と連携しています。	通常勤務
	5階・6階病棟（各40床） リハビリテーション科 神経内科・整形外科	脳血管疾患や脊髄損傷、廃用症候群等の患者が入院する回復期リハビリテーション病棟。患者のADL向上と在宅復帰のため、多職種協働で支援しています。	2交代制 2人夜勤
	4階病棟（40床） 整形外科 リハビリテーション科 神経内科・小児科	回復期にある整形外科、リハビリテーション科、神経内科の患者のリハビリテーション看護と整形外科手術後や小児神経疾患患者の看護、ボトックスや高次脳機能評価の短期リハ入院など、看護の対象が多岐に渡ります。	2交代制 2人夜勤
	手術 中央材料室	QOLやADL向上のための整形外科的手術を実施しています。中央材料室では衛生材料の物品管理や感染症対策としてPPEの適切な採用、在庫管理を行っています。	通常勤務
	こども療育センター （33床）	多職種と連携し、入所児一人ひとりのQOL維持向上を目指した成長発達支援、家族支援を行っています。また、短期入所、日中一時支援事業により、地域で生活する障害児、保護者の在宅支援に取り組んでいます。	2交代制 2人夜勤
施 設 部 門	こども発達支援センター	親子通園している心身に障害を持つ児童の健康管理・相談を行っています。	通常勤務
	障害者自立訓練センター （駒生園）	18歳以上の身体障害者、高次脳機能障害者を対象に利用者が自立して生活できるように支援しています。	通常勤務

スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

管理責任者	スタッフ数
看護部長：石川 久美子	
看護副部長：伊藤 智子	
看護副部長兼中材・手術室師長：小林 晃美	1名
外来師長：小野 美佐	5名
4階病棟師長：廣田 桃子	20名
5階病棟師長：鈴木 朝子	19名
6階病棟師長：藤田 愛子	19名
看護部長室兼医療安全管理室師長：岩上 裕美	

認定看護師資格取得者	氏 名
脳卒中リハビリテーション看護 3名	廣田 桃子 岡本 淳 片山 泰司
回復期リハビリテーション看護師 3名	伊藤 智子 小林 晃美 平出 昌子
摂食・嚥下障害看護 1名	横田 由紀

活動実績

看護部委員会	活動の概要
教育委員会	年間教育プログラムに沿って専門研修、クリニカルラダー研修を実施。リハビリテーション部看護部合同新規採用職員研修を実施。
業務委員会	「看護基準」「看護手順」の見直しを実施。
記録委員会	看護記録マニュアルの見直しを実施。看護記録形式的・質的監査を実施。新採用者、中途採用者へのチェックリスト作成。
認定看護師委員会	職員への研修企画実施、看護ケアの指導・相談。 家族および患者に対する脳卒中再発予防指導への取り組み。 NST 活動、リンクナースへの教育・指導。 歯科専門職と連携による口腔機能管理の推進。 高齢者施設等における出前講座、院外研修の実施。
ふれあい看護実行委員会	5校11名の高校生を受け入れ、ふれあい看護体験を実施。
リンクナース会	活動の概要
褥瘡リンクナース	褥瘡発生リスクの高い患者の把握、予防指導と処置の検討。 体圧分散用具の整備。褥瘡チーム回診の実施（毎週1回）。
ICT リンクナース	感染対策の周知と指導、各部署の感染対策状況チェック。
NST リンクナース	病棟 NST の運営と活動。患者の栄養カンファレンス、ミールラウンドの実施。

人材育成への取り組み

次の教育目標を掲げ、人材育成に取り組んでいます。

また、教育プログラムには、クリニカルラダー、eラーニングによる自己学習の導入をしています。

- ① リハビリテーション看護の専門的知識と技術を習得し、患者のニーズに沿った個別的な看護実践ができる
- ② 多職種との連携・協働ができる看護師を育成する
- ③ 科学的根拠のある看護が実践できる看護師を育成する
- ④ 主体的に学び、自己研鑽ができる看護師を育成する
- ⑤ 積極的に認定看護師の育成に努める

実習生受入れ状況

令和6（2024）年度は、リハビリテーション看護実習として1校、小児看護学実習として1校の施設見学実習を受け入れました。

今後の方向性

患者の自立に向けた質の高いリハビリテーション看護を実践し、安全・安心な環境を提供します。また、看護学生や他病院・施設からの看護師の実習、高校生・中学生の職場体験を積極的に受け入れます。

第3 こども発達支援センター

1 概要

こども発達支援センターは、児童福祉法に基づく児童発達支援センターであり、心身に障害のある児童に対して、専門職が障害に応じた保育や看護、各種リハビリテーション、心理療法などを提供するとともに、保護者の様々な悩み・相談にも応じることで総合的な療育を提供し、児童の健全な発達を支援しています。

また、児童と家族が、地域の中で、ライフステージに応じた医療や福祉、教育などを適切に利用できるよう、病院や障害児サービス事業所あるいは保育園・学校などへの技術的な支援も行っています。

令和3年度には保育所等を訪問して児童を支援する事業も開始するなど、本県における障害児への早期発見・早期療育の中核的な役割を果たすため、各種事業に取り組んでいます。

2 スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

通園療育課長：檜山 浩

通園育成科長：畠山 美知（保育士）

臨床心理科長：谷川 麻記（公認心理師、臨床心理士）

通園リハビリテーション科長：室井 亜紀子（理学療法士）

通園看護科長：小野 美佐（看護師）

地域支援科長：佐藤 文子（言語聴覚士）

他 保育士 12名

公認心理師 5名

理学療法士 2名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

3 活動実績

(1) 通園事業

ア 児童発達支援センター及び医療型児童発達支援センター

児童発達支援センター（センター内呼称：福祉型クラス）は、発達障害などのある児童に対して、医療や保育・福祉などの多様な側面から総合的な発達を促すとともに、社会生活に必要な知識や技能などを獲得できるように援助することを目的としています。

医療型児童発達支援センター（センター内呼称：医療型クラス）は、上肢、下肢又は体幹の機能の障害（肢体不自由）のある児童に対して、医学的リハビリテーションのほか、保育や福祉などの多様な側面から、機能の改善・発達を促し、集団生活に適応できるよう援助することを目的としています。

ともに親子通園施設であり、次のステップ（幼稚園や保育園、親子分離の療育施設、特別支援学校等への通園（通学））に繋がられるよう一人ひとりの療育目標を立て、その達成に向けた集団指導と個別訓練を提供しています。

また、親子通園であることを活かし、保護者に対しても、子どもの発達に関する正しい知識や子どもとの適切な関わり方を学べるよう支援しています。

イ 定員

児童発達支援センター 30 人

医療型児童発達支援センター 30 人

ウ 通園期間

原則 1 年以内

エ 通所支援の提供日及び提供時間

クラスごとに通園曜日を定めて、週 3 日の通園

時間は午前 10 時～午後 2 時

オ 通園のパターン

区 分		通 園 曜 日				
種別	クラス名	月	火	水	木	金
福祉型クラス	ぱんだ組		○		○	○
	こあら組	○		○	○	
	うさぎ組		○	○		○
	ひよこ組	○		○	○	
医療型クラス	きりん組		○	○		○
	りす組	○	○		○	

カ 事業の実績

① 通園児数

(単位：人)

		R2	R3	R4	R5	R 6
福祉型クラス	実人員	396	287	440	451	251
	延人数	2,964	2,430	3,819	3,753	2,160
医療型クラス	実人員	121	191	239	194	178
	延人数	832	1,414	1,374	1,236	1,188

※人員は毎月初日在籍児数

② 通園児の訓練等の実施状況（年間延べ件数）

（単位：件）

	R2			R3			R4			R5			R6		
区分	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計
診察	119	97	216	69	85	154	93	96	189	117	112	229	80	85	165
理学療法	14	493	507		727	727		603	603	2	539	541	2	502	504
作業療法	731	190	921	418	242	660	483	181	664	468	138	606	239	135	374
言語療法	350	99	449	308	195	503	467	191	658	431	130	561	235	124	359
心理相談	382	112	494	276	172	448	473	167	640	474	135	609	227	123	350

※保育場面参加件数を含む

（2） 保育所等訪問支援事業

こども発達支援センターでは、令和3年度から保育所等訪問支援事業を開始しました。

これは、ご家族からの依頼により、職員がお子さんの通う保育所や幼稚園等に出向き、当該保育所等のスタッフと情報を共有し、お子さんがより健やかに成長できるように、また集団生活の場所で安心して過ごせるよう支援する事業です。

ア 対象児：県内在住で、集団生活を営む保育所等の施設に通っているお子さん

イ 利用期間：1年（基本、期間延長可）

ウ 訪問回数：月2回以内

昨年度（令和5年度）の利用契約者数は23人、今年度（同6年度）は32人であり、事業利用者は落ち着いた増加傾向を見せています。また、保育所や幼稚園への訪問だけでなく、小学校への訪問も開始しました。

（3） 地域療育支援事業

こども発達支援センターでは、例年、肢体不自由児や発達障害児等が、住み慣れた地域で必要な医療・福祉サービスを利用できるよう、地域療育支援事業として、地域の児童発達支援事業所等を対象とした研修会を開催するとともに、技術習得（センターとしては支援）を目的とした実習を受け入れています。

例年、児童発達支援事業所や保育所・幼稚園、市町等の職員を対象とした医師、療法士等による研修会を1～2回開催しています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和2年度・3年度は1回の開催としましたが、4年度からは2回開催となり、今年度も2回開催致しました。

実習の受け入れは、1回の受入れ人数は2人以内とするなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中的に実施することで、目標である回を大きく超えた32回、44名を実施することができました。今後とも利用児童へのストレスなどを考慮しながら、効果的な実習受け入れに取り組んで参ります。

(4) 通園児・退園児の情報交換等

こども発達支援センター利用児の療育向上に資するため、通園中及び退園後において、利用児が関係する保育所、幼稚園、相談支援事業所等との情報交換や技術支援を行っています。

		R2		R3		R4		R5		R6	
		施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)	施設数 (件)	対象児童 (人)
来 園	保育園	1	1			2	2	1	1	3	3
	幼稚園	7	8	1	1	5	6	3	5		
	通園施設		1	1	2					1	15
	相談支援事業所	6	11	8	12	9	13	5	5	3	3
	児童発達事業所										
	計	14	21	10	15	16	21	9	11	7	21
訪 問	保育園	1	1	2	2	3	3	2	2	5	5
	幼稚園	6	8	15	16	12	17	12	17	11	19
	通園施設	1	17	1	18	2	23	1	17	1	5
	相談事業所										
	児童発達事業所									1	1
	計	8	26	18	36	17	43	15	36	18	30

(5) 退園児療育支援外来（フォローアップ外来）事業

こども発達支援センター利用児の退園後の療育の場を提供することにより、地域での生活を支援するために実施しています。なお、この外来は原則として退園後から就学前とし、こども発達支援センターの訓練室等を利用して通園療育課の職員が実施しています。

退園児療育支援外来（フォローアップ外来）の実績

（単位：件）

区分	R2			R3			R4			R5			R6		
	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計
理学療法		299	299	11	139	150	11	155	166		222	222	4	319	323
作業療法	162	40	202	264	11	275	289	75	364	331	66	397	363	82	445
言語療法	255	35	290	237	20	257	329	54	383	472	61	533	622	79	701
心理相談	16	15	184	207		207	158	7	165	196	29	225	179	14	193

（注）入園前外来も含む

4 人材育成への取り組み

センターの利用児に適切な療育を提供し、また、保護者を支援するためには、専門的知識や技術を習得する必要があるため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

5 実習生受け入れ状況

地域の関係者への技術支援のため、実習生等を積極的に受け入れています。

令和元年度までは、歯科衛生士専門学校の実習生を延べ日数で9日間受け入れていましたが、令和2年度からは実習と新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の両立を図るため、延べ日数を6日に減らすほか、直接的な口腔ケア実習を避けるなどしています。

令和6年度は歯科衛生士29名、保育士3名、言語聴覚士1名を受け入れました。

また、地域療育支援事業（再掲）は、1回の受入れ人数を概ね2人以下に限定するなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中実施することで、計32回（44人）の実習を受け入れました。

6 今後の方向性

幼児の障害に係る正しい知識と専門性の高い技術を身に付けた保育士や療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、公認心理師、看護師が協力して、入園児個々の心身状況に応じた適切な保育やりハビリテーションを一所懸命に提供していきます。

また、障害の状況や家族のニーズに応じた総合的な療育の場等を提供し、専門職による治療、発達促進のための療育指導、家族に対する療育支援等を行っていきます。

障害児とその家族が、ライフステージに沿って、地域で適切な療育及び教育並びに障害福祉サービスが受けられるよう、引き続き、地域の関係者への技術援助や指導も行い、本県における障害児の早期発見、早期療育の中核的な役割も果たしていきます。

令和7年度からは医療型発達支援を廃止するとともに、通園日の緩和を行い、乳幼児クラスの訓練も始まります。

第4 こども療育センター

1 概要

こども療育センターは、児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設です。医療法に規定する病院機能も有し、四肢や体幹に機能障害がある児童（肢体不自由児（18歳未満））が地域社会で自立した生活ができるよう、有する機能・人材を円滑かつ効率的に活用して、治療や訓練等（療育）を効果的に行っています。

また、障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業者として、障害児を一時的にお預かりする短期入所事業や市町との委託契約による日中一時支援事業を行っています。

なお、短期入所事業では、人工呼吸器装着児も受け入れています。

2 スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

入所療育課長兼入所育成科長：重田 恭一

入所看護科長：吉末 千夏

他 保育士 4名

看護師 19名

保健師 1名

3 活動実績

(1) 入所事業

脳性麻痺、二分脊椎などにより手足又は体幹の機能に障害のある児童等に対し、障害程度や能力・適性に応じた保育・看護・機能訓練等を行い、少しでも自立した日常生活ができるよう取り組みました。（定員30人）

児童・生徒は、隣接する「わかさ特別支援学校」の小学部・中学部へ通学しているほか、「のざわ特別支援学校」の高等部に通学している生徒もいます。

① 入所児の状況（障害の級別）（毎年度3月31日現在）

（単位：人）

	R2	R3	R4	R5	R6
人 員	22	19	18	19	21
障 害 等 級					
1 級	12	11	8	8	10
2 級	8	6	6	7	7
3 級	2	2	1	1	1
その他			3	3	3

② 年齢別入所児の状況（令和7（2025）年3月31日現在）（単位：人）

年齢 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
男	2	1		2	1		1		1			2	1		1		1		13
女						1	1		3	1			1		1				8
計	2	1		2	1	1	2		4	1		2	2		2		1		21

③ 入所児の措置・契約別状況（令和7（2025）年3月31日現在）（単位：人）

項目 区分	男		女		合 計		
	措置	契約	措置	契約	措置	契約	計
乳幼児	6			1	6	1	7
小学部（1～3）		2	2	2	2	4	6
小学部（4～6）	1	1	1		2	1	3
中学部	1	1	2		3	1	4
高等部		1				1	1
その他							
合 計	8	5	5	3	13	8	21

④ 入所期間の状況（令和7（2025）年3月31日現在）（単位：人）

区分 期間	～6か 月未満	6か月～ 1年未満	1年～ 2年未満	2年～ 4年未満	4年～ 6年未満	6年～ 8年未満	8年～ 10年未満	10年～ 12年未満	12年以上	合 計
男	措置	1	2	3	1				1	8
	契約		1		1			1	2	5
女	措置				2		1	1	1	5
	契約			2	1					3
計	1	3	3	4	3		1	2	4	21

⑤ 入所児の要介助状況（令和7（2025）年3月31日現在）（単位：人）

区 分	食事	着脱 着衣	洗面 歯磨き	トイレ	入浴	歩行	言語	比 率
自立	2			1		3	2	5.4%
一部介助	4	2	3	2	4	4	2	14.3%
全部介助	15	19	18	18	17	14	17	80.3%

⑥ 退所先の状況

(単位：人)

		R2	R3	R4	R5	R6
在宅	特別支援学校		1		1	1
	特別支援学級					
	その他	1	3	1	2	1
	他の児童福祉施設		1	4	1	2
施設の変更等	障害者(18歳以上)の施設			1		
	就職					
	死亡					
	その他					

⑦ 入所児への機能訓練等の実施状況

(単位：件)

	R2	R3	R4	R5	R6
理学療法	1420	1156	685	864	959
作業療法	528	635	355	593	717
言語療法	154	246	231	189	264
臨床心理		22	36	21	27
合 計	2102	2059	1307	1667	1967

⑧ 補装具専門外来対応状況

(単位：件)

	R2	R3	R4	R5	R6
ブレースクリニク	18	58	51	14	36
シーティングクリニク	22	81	75	19	34
合 計	40	139	126	33	70

(2) 短期入所事業

在宅で障害児を介護している保護者が、疾病その他の理由によって、一時的に介護ができなくなった場合や休息を必要とする場合に、当該障害児を短期間受け入れています。

平成 21 (2009) 年 3 月からは、短期入所利用定員 4 名のうち 2 名について人工呼吸器装着児等の重症心身障害児を受入れています。

利用期間 原則 7 日以内 (宿泊を伴う)

定 員 4 人

短期入所受入実績

(単位：人)

	R2	R3	R4	R5	R6
実人数	60	93	91	67	82
延人数	314	425	478	373	534
契約数	22	25	23	20	19

(3) 日中一時支援事業

障害児の日中における活動の場を確保するとともに、家族の就労を支援したり、障害児を日常的に介護している家族に一時的な休息を提供することを目的として、市町との委託契約のもと、障害児の短時間受け入れを行っています。

利用期間 日戻り（1日以内）

定 員 4人

日中一時受入実績

（単位：人・日）

	R2	R3	R4	R5	R6
実人数	31	57	54	48	43
延人数	102	113	156	101	87

4 人材育成への取り組み

利用児への適切な療育や保護者支援を行うため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めています。

5 実習生受け入れ状況

地域支援を目的として保育士養成校から実習生を積極的に受け入れています。

6 今後の方向性

県内唯一の医療型障害児入所施設（主として肢体不自由児）として、引き続き障害児の療育を行って行きます。

また、指定障害福祉サービス事業所（短期入所等）として、在宅障害児の家族のレスパイト等を支援していきます。

第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

1 概要

障害者自立訓練センター（駒生園）は、障害者総合支援法に基づく障害者（身体障害（主に肢体不自由）及び高次脳機能障害）の地域生活移行を目指した指定障害者支援施設です。

脳血管疾患、脳性麻痺、外傷等により四肢や体幹等に障害のある方や高次脳機能障害の方を対象に、自立訓練（機能訓練／生活訓練）と施設入所支援を通して、それぞれの障害に応じたサービスを提供することで、身体機能の維持・回復や生活能力の向上などを図り、様々な形で社会参加を支援します。

具体的には、利用者の身体能力等を的確に把握するため、サービス等利用計画に基づき、入所時及び入所後の適切な時期に評価を行い、本人、家族と協議しながら、個別支援計画を作成（3か月毎に見直し）し、利用期間内に地域生活へ移行することを目指して各種訓練を行います。

利用期間は原則として1年ですが、機能訓練は1年6か月、生活訓練は2年まで延長可能です。

2 スタッフ紹介（令和7年4月1日現在）

施設部長：江田 達夫

自立支援課長：関塚 英嗣

生活支援科長：須藤 直子

自立訓練科長：長崎 隆司

自立看護科長：岩上 裕美

他 生活支援員 10名

看護師 1名

理学療法士 1名

作業療法士 1名

公認心理師 1名

業務嘱託員 4名

夜勤専門員 4名

事務職員 1名

3 活動実績

多職種が連携し、かつ支援計画に基づき、利用者のニーズに応じた多彩な自立訓練を実施しました。

（1）機能訓練（定員 30人）

- ・ 身体能力の維持、残存能力の育成助長
- ・ 日常生活動作の向上

食事やトイレなど生活上のあらゆる場面を訓練の場と捉え、実用に結びつく訓練を行いました。

- ・ 生きがいの再構築

創作活動や教養活動、レクリエーション等、体験活動を積極的に実施しました。

- ・ 社会性の涵養

様々な人間関係をスムーズに築いていけるよう、個別指導やグループ活動を通して、コ

コミュニケーション能力の向上を目指しました。

自立訓練（機能訓練）利用状況

（単位：人）

期日 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
年間利用実人員	14	18	15	14	17
年間利用延べ人数	1,755	1,266	1,272	1,780	2,319

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
個別訓練	1,040	678	704	1,010	970
自主訓練	1,497	1,022	937	1,780	2,011
言語訓練（※）	127	102	117	108	142
心理相談	68	75	53	86	109
認知リハ（グループ） *R2 ～	136	118	179	281	268
生活グループ *R4 ～			239	312	40
公共交通機関利用・外出訓練		3	1	22	
買い物訓練			3	12	
調理訓練	9		1	6	
入浴訓練	2	6	5	8	7
グループ訓練	60	41	49	89	92
家庭訪問・居宅動作確認等	8	3	5	6	5
施設見学・施設実習	16	11	15	24	27
補装具作成支援	18	6	5	25	8
計	2,981	2,065	2,313	3,769	3,679

（※）生活訓練利用者含む

（2）生活訓練（定員 10 人）

- 生活リズムの確立

施設内の生活を通して規則正しい生活習慣を身につけるとともに、日中の活動性を高めるための訓練を行いました。

- 生活管理能力の向上

利用者が日課に沿って自ら行動できるよう、スケジュール表を活用し日課の管理等を行いました。

- 社会生活技能、対人技能の向上

地域での生活に向け、買い物や公共交通機関を利用した外出訓練、調理訓練等を実施し、社会生活技能の向上を図りました。また、グループワークを行い、メンバー間の意見交換や役割分担・計画・実行・反省の過程を通して、対人技能の向上を目指しました。

- ・ 代償手段の獲得
メモリーノートを活用し、記憶の代償手段の獲得を図りました。
- ・ 作業耐性の向上
各種手工芸、事務作業、園芸作業及びスポーツ訓練を通して作業耐性の向上を図り、就労等に向けた準備を支援しました。

自立訓練（生活訓練）利用状況

（単位：人）

期日 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
年間利用実人員	7	5	4	7	10
年間利用延べ人数	908	769	192	951	1,353

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
スケジュール確認・振り返り	1,757	1,430	485	951	2,128
スキルアップ	367	292	68	1	204
認知リハ	373	257	36	155	395
グループOT	287	285	63	171	353
ガーデニング	334	175	47	139	448
レクリエーション	8		2	6	21
スポーツ	235	213	29	142	357
作業	143	125	16	81	229
就労訓練	91	86	49		44
個別（OT 又は P T）	276	203	26	210	319
心理相談	42	42	9	23	57
創作	279	282	75	244	759
パソコン	369	333	57	217	596
公共交通機関利用訓練・外出訓練	3	2	2	6	15
買い物・調理訓練	13	1		14	13
就労関連（施設見学・体験等）	17	125	121	1	27
その他（自主トレーニング等）	961	797	89	107	255
計	5,555	4,648	1,174	2,468	6,220

自立訓練（機能訓練）利用者の障害等級別状況推移

（単位：人）

等級 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
1 級	6	10	4	9	10
2 級	4	8	5	4	6
3 級	2		1		
4 級			2	1	
5 級			2		
6 級	2		1		
その他					1
計	14	18	15	14	17

（注）年間の全利用者数

自立訓練（機能訓練・生活訓練）利用者の病種別状況（R 6）

（単位：人）

病 種	脳血管疾患	頭部外傷	脊損・胸損 頸損	難 病	その他	計
人 数	20	1	2		4	27

（注）年間の全利用者数

（3）施設入所（定員 30 人）

入所しながら自立訓練等を実施することが必要かつ効果的と認められる利用者や通所が困難な利用者を対象に、入浴・排せつ等の介助、生活等に関する相談・助言など日常生活上の支援を行いました。

施設入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
年間利用実人数	16	14	14	19	21
年間利用延べ日数	3,510	2,316	1,618	2,575	4,399

（注）年間の全利用者数

（4）短期入所（定員 4 人）

在宅の障害者の介護を行う方が疾病やその他の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、短期間の受入れを行い、入浴・排せつ、食事の介護など必要な支援を行いました。

短期入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
年間利用実人員	59	48	33	63	103
年間利用延べ日数	427	284	163	390	526

（注）年間の全利用者数

4 人材育成への取り組み

利用者本人や家族からの相談等に適切に対応するためには、専門分野だけではなく、幅広く関連した情報等が必要なため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

5 実習生受入れ状況

地域支援のため、介護福祉士養成校の実習生等を積極的に受け入れています。

令和6（2024）年度は、福祉・介護職見学・体験希望者を1名（実習期間1週間）受け入れました。

6 今後の方向性

身体障害者や高次機能障害者への自立訓練（機能訓練／生活訓練）を行う県内唯一の施設として、利用者がスムーズに地域生活に移行できるよう、関係機関等と連携を図り効果的な自立訓練の実施に努めていきます。

また、利用者や家族をはじめ県民のニーズに沿ったサービスが提供できるよう利用しやすい施設づくりに努めていきます。

第6 医療安全管理

1 概要

医療安全管理対策及び医療安全事故発生時の対応体制の確立を推進し、もって適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としています。

医療安全管理委員は、安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議することを目的に設置しています。さらに、体制確保するための委員会・ワーキンググループ（WG）を所管しています。

2 各委員会等活動内容

<リスクマネジメント委員会>

- ・ 活動内容
 1. 事例のレポート作成、把握、分析
 2. 事故防止対策マニュアルの見直し
 3. 事故報告書、インシデントレポート等の報告
 4. 事故防止の教育、職員の研修
 5. その他、事故防止
- ・ 活動実績
 1. 委員会実施（月1回／第2月曜日）
 2. 入院患者の所在不明時の対応について
 3. 無断離院・離棟の時間帯別対応手順について
 4. 薬剤投与に関するインシデント低減に向けた検討及び病棟薬剤師の配置について
 5. USBメモリの取り扱いについて

<転倒・転落検証WG>

- ・ 活動内容
 1. 検証WG実施（年10回）
 2. 転倒・転落事例検討
 3. 検証
- ・ 活動実績
 1. トランス評価について見直し
 2. 各部署ラウンド
 3. 安全表示カードについて
 4. 新規採用者研修講師

<感染対策委員会>

- ・ 活動内容
 1. 感染症の院内感染防止対策の作成及び推進
 2. 感染症の院内感染症発生時の対応マニュアル等の作成
 3. 院内感染などの情報収集及び職員研修

4. その他、院内感染対策

・ 活動実績

1. 委員会（月1回／第3水曜日）

ICT（感染防止対策チーム）（感染対策委員会終了後、定期月1回、他臨時開催随時）
会議の開催

2. 新規採用者研修

3. 感染防止対策研修会（2回）「新型コロナウイルス感染症の最新情報と正しいPPE装着の再確認、抗原定性キットの正しい検査方法」、「環境整備、ノロウイルスについて」

4. 栃木県立がんセンター共同カンファレンス（4回）

5. 栃木県立がんセンター感染管理認定看護師ラウンド（2回）

6. 感染症対応（新型コロナ、インフルエンザ、ESBL、AmpC産生菌、CRE、ノロウイルスなど）

<医療安全管理室>

・ 活動内容

1. アクシデント・インシデントレポート報告による情報の収集、分析及び提供

2. 医療安全対策の実施状況の評価及び業務改善計画書の作成

3. 医療安全管理に関する連絡調整及び医療安全管理委員会との連携

4. 医療安全対策の教育、職員の研修

5. その他、医療安全

・ 活動実績

1. 打ち合わせ実施（月1回／第2月曜日）

2. 新規採用者研修

3. 医療安全マニュアルの全面改訂

4. 院内研修会実施後の習熟度把握

5. 医療安全対策研修会（2回）「医療ガスの安全管理について」「AEDの使用方法和心肺蘇生」

6. 医療安全推進週間の取り組み「医療安全に関する標語の募集」の実施

7. 栃木県立がんセンター医療安全対策地域連携加算ラウンド

<褥瘡対策委員会>

・ 活動内容及び実績

1. 褥瘡対策委員会の開催

2. 院内褥瘡発生率の集計・現状把握・分析

3. 褥瘡に関する診療計画書の作成

4. 褥瘡回診（多職種でラウンド・回診前にカンファレンス実施）

5. 院内研修会の企画・開催（令和6年度研修会は令和7年1月28日開催。テーマ：「高齢者の皮膚ケア スキン・ケアの予防と管理」講師：NHO 栃木医療センター褥瘡対策室 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 遠藤富美氏）

6. 褥瘡ケアマニュアルの作成・改訂（1回／年）

7. 体圧分散寝具・高機能エアマットレスの管理・運用

＜感染性廃棄物管理委員会＞

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和7年2月28日開催
2. センターの生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、安全な医療の提供を保全

＜医療ガス安全管理委員会＞

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和7年2月28日開催
2. 医療ガス設備の保守点検

＜医療機器安全管理委員会＞

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和7年2月28日開催
2. 保守点検に関する計画の策定及び保守点検

＜身体拘束等適正化検討委員会＞

・活動内容

1. 委員会実施（月1回／第4木曜日）
2. 身体拘束等の適正化のための計画立案
3. 提出された身体拘束等に関する報告書の検討
4. 身体拘束等の解除に向けた検討
5. 審議された事項の職員への周知
6. 身体拘束等の適正化のための職員研修の実施
7. その他身体拘束等の適正化に関し必要な事項

3 過去5年間（令和2年度～令和6年度）における医療事故等について

過去5年間に当センターで発生した医療事故等は次のとおりです。

1 レベル別件数

レベル （※1）	内 容	件数（年度別）				
		R2	R3	R4	R5	R6
0	エラー（※2）や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	100	100	76	56	42
1	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない。）。	294	242	240	293	298
2	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサイン（※3）の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。）。	114	86	108	91	108
3a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）。	63	44	64	70	85
3b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）。	5	5	7	4	12

レベル (※1)	内 容	件数（年度別）				
		R2	R3	R4	R5	R6
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。					
4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。					
5	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く。）					
計		576	477	495	514	545

※1 レベル0～3a…ヒヤリ・ハット事例（患者に実害がなかったもの）に該当

レベル3b～5…医療事故（患者等への実害があったもの）に該当

※2 ある行為が①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※3 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数（（公財）日本医療機能評価機構による分類）

事 象	内 容	件数（年度別）				
		R2	R3	R4	R5	R6
薬剤	注射、点滴、内服薬など	158	138	141	131	114
輸血	血液検査、輸血など					
治療処置	手術、麻酔、処置など	23	26	33	19	18
医療機器等	医療機器など	8	9	5	6	3
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	35	21	44	44	50
検査	採血、撮影など	25	12	11	11	15
療養上の世話・場面	転倒、転落、給食、栄養など	288	229	231	273	308
その他	苦情、暴言暴力、離院離棟など	39	42	30	30	37
計		576	477	495	514	545

第7 研究論文、研究発表等

1 論文及び著書

小児科

○論文

1. Noda M, Matsumoto A, Ito H, Kagami M, Tajima T, Matsumura T, **Yamagata T**, Nagata KI. An unstable variant of GAP43 leads to neurodevelopmental deficiency. Sci Rep. 2024;14:31911.
2. Ikeda A, Hakuno Y, Asada K, Ikeda T, **Yamagata T**, Hirai M. Developmental process of the understanding of linguistic register in children: A comparison of typically developing children, autistic children, and children with Williams syndrome. Autism Res. 2024;17:1902-1915.
3. Kobayashi M, Miyauchi A, Jimbo EF, Oishi N, Aoki S, Watanabe M, Yoshikawa Y, Akiyama Y, **Yamagata T**, Osaka H. Synthetic aporphine alkaloids are potential therapeutics for Leigh syndrome. Sci Rep. 2024;14:11561.
4. 松本 歩, 永田 浩一, **山形 崇倫**. マイクロアレイ染色体検査で明らかになる染色体微細構造異常症候群の診療体制を考える 小児神経疾患とCNV. 脳と発達 2024;56:266-269.
5. **Kurokawa Y**, Kojima K, Ishii T, Jimbo E, Yamagaishi H, Miyauchi A, Wakabayashi H, Muramatsu K, Osaka H, **Yamagata T**. A female patient with paramyotonia congenita. Part 1: Combination therapy of lacosamide and topiramate. Brain Dev Case Reports 2024;4:100041
6. **Kurokawa Y**, Kojima K, Ishii T, Jimbo E, Yamagaishi H, Miyauchi A, Wakabayashi H, Muramatsu K, Osaka H, **Yamagata T**. A female patient with paramyotonia congenita(Part 2): Contribution of SCN4A to the developing brain. Brain Dev Case Reports 2024;4:100042
7. 溝部万里奈, 村松一洋, 高瀬訓子, 関口梨沙, 高橋宏典, 吉原重美, 高橋 努, 木内敦夫, 小坂 仁, **山形 崇倫**. 栃木県における脊髄性筋萎縮症拡大新生児スクリーニングの公的事業化と抗 AAV9 抗体陰性化後に onasemnogene abeparvovec を静注した 1 例. 脳と発達 2025;57:138-143.

リハビリテーション科

○論文

1. **船越 政範**. JRATへ参加するためにー災害リハビリテーションに興味をもたれた方へ. J Clin Rehabil. 2024; 33(12): 1193-1195.

2 学会発表

小児科

- ・ 浅倉 佑太, 小島 華林, 横関 紗帆, 永井 康平, 吉野 光朗, 若江 恵三, 溝部 万里菜, 若林 慶, 三谷 忠宏, 池田 尚広, 宮内 彰彦, **山形 崇倫**, 村松 一洋, 小坂 仁. 再発予防にタクロリムスを選択したMOG抗体関連疾患の13歳男子例. 第66回日本小児神経学会学術集会. 2024.6.1 名古屋

屋

- ・ **増田 卓哉, 栗島 真理, 小島 華林, 山形 崇倫**, ADHD治療におけるリスデキサンフェタミンメシル酸塩とメチルフェニデート塩酸塩との安全性の比較. 2024.5.30 名古屋
- ・ Hitoshi Osaka, Sachie Nakamura, **Takanori Yamagata**, Karin Kojima, Kazuhiro Muramatsu, Eriko Jimbo, Yoshiyuki Onuki, Takeshi Nakajima, Kensuke Kawai, Shin-ichi Muramatsu. Gene Therapy Development for Glucose Transporter 1(GLUT1) Deficiency. 2024.9.12 福岡
- ・ 小久保 めぐみ, 鈴木 敦子, 内山 佳信, 浅川 知佳, 和久井 千夏子, 清和 ちづる, **増田 卓哉, 山形 崇倫**, 遺伝子治療実施後のAADC欠損症患者2名に対する嚥下リハビリテーションの経験. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2024.11.3岡山

整形外科

- ・ **林 志賢**, 井上 泰一, 竹下 克志. 脳性麻痺患者に対する機能的電気刺激装置L300 Goの使用経験. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2024.11.2 岡山
- ・ **林 志賢**, 渡邊 英明, 滝 直也, 小沼 早希, 竹下 克志. 3D プリント技術を活用した骨延長術の症例報告. 第35回日本小児整形外科学会学術集会. 2024.12.13 福岡
- ・ **Yukinori Hayashi**, Takashi Ajiki, Hirokazu Inoue, Katsushi Takeshita. Finite Element Analysis of Fixation Strength in Kirschner Wire Fixation of Phalangeal Fractures - Comparison Between Complete and Incomplete Fracture Models. Orthopaedic Research Society 2025 Annual Meeting. 2025.2.7 Phoenix, AZ, USA

リハビリテーション部

- ・ **山岸 拓真, 三浦 祐太郎, 中山 瑞恵, 稲村 恵理子**, 大腿骨近位部骨折患者における大腿四頭筋筋厚とADLとの関連～超音波画像診断装置を用いた予後予測の可能性～, 第62回全国自治体病院学会, 2024.10.31, 新潟
- ・ **小久保 めぐみ, 浅川 知佳, 鈴木 敦子, 内山 佳信, 和久井 千夏子, 清和 ちづる, 増田 卓哉, 山形 崇倫**, 遺伝子治療実施後のAADC欠損症患者2名に対する嚥下リハビリテーションの経験, 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2024.11.1-3, 岡山
- ・ **狩野 泰宏, 金田 智子, 平間 幸見, 土屋 綾子**, ドライビングシミュレーターの経験が麻痺側上肢の課題設定に役立った症例への運転再開支援, 第14回栃木県作業療法学会, 2025.2.9, 自治医科大学
- ・ **土屋 綾子, 平間 幸見, 小野崎 桃佳**, 運転能力評価において総合的な判断を行うのに必要な視点について考える～グレーゾーンの患者の評価結果から～, 回復期リハビリテーション病棟協会第45回研究大会, 2025.2.21-22, 札幌
- ・ **大石 弥生, 狩野 泰宏, 土屋 綾子**, 上肢に対する自主訓練やの取り組みとその効果～麻痺手使用頻度の促進に向けて～, 回復期リハビリテーション病棟協会第45回研究大会, 2025.2.21-22, 札幌

看護部

- ・ **大貫 駿希, 小平 佳苗, 有馬 克美, 小林 晃美**, 特性要因図を活用した安全対策表示板の見直し, リハビリテーションケア合同研究大会, 2024.10.3-4, 山梨

施設部

- ・ 高橋 智茂子, 行動上の問題を示す子どもへの対応～PCITのスキルを取り入れて～,とちぎ小児看護研究会,2025.2.22,済生会宇都宮病院
- ・ 佐藤 文子、永岡 大輔, 発語困難なASD児の構音指導におけるコミュニケーションの変化, 第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会, 2024.6.1-2, 東京

栄養科

- ・ 近藤 彩子、柴田 純美、川田 千尋、船越 政範,当センターにおけるNSTの取り組み,栃木県栄養改善学会,2024.12.1,とちぎ健康の森講堂

3 講演

小児科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	山形 崇倫	SMA の新生児スクリーニング公費化の展望と対応	日本小児神経学会	名古屋	R6.5.31
2	山形 崇倫	新生児スクリーニングへのSMA 及び SCID の公費化への展望と課題	日本マス・スクリーニング学会	熊本	R6.8.23
3	山形 崇倫	Gene therapy for AADC deficiency from around the globe: The Japanese experience	PTC 社	台湾	R6.9.22
4	山形 崇倫	小児遺伝子疾患の遺伝子治療	自治医科大学	宇都宮	R6.10.5
5	山形 崇倫	公費化に向かう脊髄性筋萎縮症の新生児スクリーニングと小児神経科医のやるべきこと	小児神経学会関東地方会	web	R6.10.20
6	山形 崇倫	SMA 新生児スクリーニングの重要性と栃木県での導入経験	東海マススクリーニング推進協会 (TOMAS)	岐阜	R6.11.10
7	山形 崇倫	未来を守る新生児スクリーニング～ 子どもたちに輝く明日を！	一般社団法人 とちぎ子ども医療支援プロジェクト	宇都宮	R7.2.15
8	山形 崇倫	遺伝性疾患に対する遺伝子治療の発展と課題	日本ステロイド学会	宇都宮	R7.2.22
9	山形 崇倫	臨床実装に向けた遺伝子治療の Cutting Edge	小児遺伝学会	東京	R7.2.28

リハビリテーション科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	船越 政範	専門医共通講習会「医療福祉制度」	第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会	東京	R6.6.14
2	中澤 征人	臨床宗教師について	獨協医科大学地域支援センター地域医療教育部門	獨協医科大学	R6.9.10

整形外科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	林 志賢	バイオネス User's セミナー 脳性麻痺患者に対する機能的 電気刺激装置 L300 Go の使用経験	高松協同病院	香川県 高松市 (web)	R6.11.30

4 センター内職員研修

(1) 全体研修

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.4.1、2	新規採用職員研修	各部担当者	4/1 27 4/2 22
R6.9.5	全体研修	所長 山形 崇倫	32
R6.10.3	クレーム対応研修	ホスピタリティ・キャリア・アカデミー 伊藤 由起枝氏	28
R6.11.7	アンガーマネジメント・カスハラ対応研修	経営支援人事労務研究所 松本 和子氏	31
R6.11.1 ～ 12.27	診療放射線安全管理研修会	診療部 船越 政範 放射線科 内田 昇	105 (研修録画の 自主視聴)

(2) 部内研修

ア 施設部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.4.24	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.5.16	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.5.29	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.6.13	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.6.26	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.7.11	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.7.17	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.8.1	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.8.28	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.9.12	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.9.18	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.10.17	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.11.14	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R6.11.20	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R6.12.11	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.12.25	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R7.1.15	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R7.1.30	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R7.2.12	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R7.2.27	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6
R7.3.19	臨床心理科科内学習会	公認心理師	5
R7.3.27	臨床心理科科内学習会	公認心理師	6

イ 診療部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.4.2	医薬品安全管理研修会	田辺三菱製薬（株） 鈴木氏	5
R6.5.28	医薬品安全管理研修会	薬剤科 石川	6
R6.9.12 R6.9.18	医薬品安全管理研修会	薬剤科 浦島	21
R6.11.28	医薬品安全管理研修会	武田薬品工業（株） 倉崎氏	4
R6.12.26	医薬品安全管理研修会	サンド（株） 今野氏	6
R6.7.3 R6.7.8	NST 勉強会（集合研修）	管理栄養士	71
R6.7.3・5・ 10・17・ 19・24・ 31	NST 勉強会（集合研修）	管理栄養士	40
R6.6.24 ～ 7.18	医療機器安全使用に関する研修会 （安全な MRI 検査の実施）看護師対象	放射線科 内田	35
R6.10.11	医療機器安全使用に関する研修（CT）	放射線科 内田	2
R6.10.7	医療機器安全使用に関する研修（MRI）	放射線科 栗原	2

ウ リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.4.3	新任職員研修（ICT ①、業務マニュアル、入院生活の流れ等）	和久井 千夏子、杉山 博紀、舟守 千瑞子、 金田 俊幸ほか	9
R6.4. 4、 5	新任職員研修（入院～退院までの支援、合同評価・カンファレンスとは、リハで必要な検査・評価の知識、療法記録と書類、電カルシステム、TAK、接遇など）	大森 建太、平岡 幸 見、山岸 拓真、鈴木 英里子ほか	9
R6.4.8	新任職員研修（リスク管理・実践、入院生活の流れ、病棟環境、備品確認・防災対策）	稲村 恵理子、渡邊 澄、石井 壮ほか	9
R6.4.15、 18	新人勉強会（上肢機能、高次脳機能評価、バランス評価 FBS）	篠崎 巧、齋藤 美帆 子、廣瀬 菜々	9
R6.4.30	新人勉強会（嚥下評価・とろみ）	山川 知恵理、金久保 陽	9

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.5.8	IVES・ショックウェーブについて	大石 弥生、狩野 泰宏、金子 拓海	20
R6.5.20	新人勉強会（車いすについて）	田中 啓幸、林 花澄	9
R6.5.23	新人勉強会（移乗動作）	石井 壮、吉武 由梨	9
R6.6.3 R6.6.5	FIM の認知項目について	小久保 めぐみ	6
R6.6.11	新人勉強会（歩行介助）	鷹簀 真菜見	9
R6.6.25	活動分析研究大会伝達講習「食事動作」	八木 瑞季、金子 拓海	14
R6.7.2 R6.7.11	運転評価に必要な神経心理学的評価 運転評価マニュアル・DS	篠崎 巧、内山 佳信、横倉 航、土屋 綾子	25
R6.7.19	PD 研修会伝達講習	金田 智子、渡邊 澄	14
R6.8.28	症例報告会	浅川 知佳	9
R6.8.30	新人勉強会（失語症評価）	笹沼 由香	9
R6.9.12	症例検討会 AADC 欠損症事例について	小久保 めぐみ	10
R6.9.13	補装具について	大貫 隆康	13
R6.10.23	学会プレ発表（大腿骨近位部骨折患者の筋厚とADL 予後予測）	山岸 拓真	7
R6.10.29	新人勉強会（NST）	亀田 真弓	9
R6.10.30	JMAP 講習会伝達	出村 律子、小野崎 桃佳	9
R6.11.29	新人勉強会（発達障害・言語）	地神 風花	9
R6.12.9	新人勉強会（脳性麻痺・ダウン症・発達障害のOT）	小川 澄恵、小野崎 桃佳	9
R7.12.18	iPad を使用した自主トレーニングについて	狩野 泰宏	10
R7.3.17	PT 症例検討会（低酸素脳症・脳性麻痺）	廣瀬 菜々、向田 紗希	13
R7.3.18	OT 研究発表報告会	土屋 綾子、大石 弥生、狩野 泰宏	13

工 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.4.3	新任職員研修（看護部概要、教育プログラム、看護部紹介、整形外科・小児科・リハ看護、救命救急、個人情報・倫理、感染対策、酸素ボンベの取り扱い）	岩澤 麻由美、石川 久美子、各部署師長、高松 宏実、三堂地 みゆき、平出 昌子、山田 裕子、岩上 裕美、業者	5
R6.4.4	新任職員研修（安全確保、患者確認、補装具紹介、姿勢介助と移乗動作、食事の介助、更衣の介助、避難経路、接遇マナーチェック）	池田 セイチ、坂本 麻子、吉末 千夏	7
R6.4.5	新任職員研修（入院から退院までの支援、合同評価、カンファレンス、リハで必要な検査・評価）	リハ部療法士	6
R6.4 月	新任職員研修（電子カルテ・看護記録）	記録委員	2

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.5.21	副師長・部署取り組み発表	三堂地 みゆき、高松 宏実、加藤 洋子、山田 裕子、大島 さとみ、平出 昌子、岩崎 里枝	36
R6.5.28	薬剤管理「正しい薬剤管理方法」	薬剤師 石川 綾香	4
R6.6.1～30	F I M（動画視聴）	脳卒中リハ看護 認定看護師 岡本 淳	4
R6.6.20	第1回看護研究研修「研究計画書の書き方」	国際医療福祉大学 落合 佳子先生	16
R6.6.20	在宅支援	MSW 齋藤 祥弘	4
R6.6.24～7.18	安全なMRI検査の実施	放射線科 内田 昇	35
R6.6.25、26	第1回 看護助手研修	eラーニング・テスト	10
R6.6.27	退院支援	副師長 神田 理絵	4
R6.7.16	患者誤認シミュレーション	副師長	3
R6.7.24、26	第2回 看護助手研修「患者確認」	副師長 神田 優香利 eラーニング・テスト	8
R6.7.30	リーダーシップ	谷田部 昌枝	8
R6.8.7	補装具勉強会	外来師長 廣田 桃子	16
R6.8.7	第1回 看護助手研修（追加研修）	eラーニング・テスト	2
R6.8.20、9.3	看護補助者に係る規程および運用についての説明会	管理部総務課 齋藤 督仁	21
R6.9.24、26	第3回 看護助手研修「感染対策・患者確認」	ICT リンクナース	10
R6.9～10月	看護補助者体制充実加算に伴う研修（動画視聴）	4階病棟看護師	3
R6.10.7	センターの役割と診療報酬改定について	管理部 石島 裕也 菊池 亮平	54
R6.10.24	回復期リハ病棟 入院日の看護師の役割	回復期リハ認定 看護師 平出 昌子	7
R6.11.21	自部署の労務管理について「看護師長」	教育委員会	9
R6.11.27	第2回看護研究研修「原稿のまとめ方」	国際医療福祉大学 落合 佳子先生	16
R6.12.19	自部署の労務管理について「副看護師長」	教育委員会	11
R7.1.21	伝達講習	仲山 知江、番場 一美、小林 拓磨	35
R7.2.4	事例発表	新任看護師	37
R7.2.13	看護研究	講評：国際医療福祉大学 落合 佳子先生	31

5 センター内研究発表

(1) リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R6.5.14	脳出血を発症し右上肢麻痺を呈した 70 代男性の自宅退院に向けて	大島 万里奈	22
R7.1.17	自立歩行困難な患者に対する歩行アシストステップモードの効果について	小野上 みなみ	25
R7.1.17	IVES による治療効果～外部 Assist モードを用いた立ち上がり着座反復動作が与える効果について	大森 建太	25
R7.1.17	L300GO を用いた症例への介入効果	向田 紗希	25
R7.1.17	脳卒中片麻痺患者に対する起立動作に着目した症例～基本動作の介助量軽減に向けて～	青木 未悠	25
R7.1.17	自宅でのトイレ動作獲得に向けて立ち上がりの介助量軽減を図った症例	古川 結菜	25
R7.3.11	症例報告～能動義手・筋電義手を使いこなせるようになるまで～	渡辺 美和子、笠原 祐子、齋藤 美帆子	15

(2) 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R7.2.4	ポジティブフィードバックによって得られた効果～患者との関わりから学んだこと～	濱田 奈々	39
	視野障害を抱えた患者の意思決定支援	室井 美穂	39
	独居の高齢患者の退院支援～多職種や地域連携の関わりを通して学んだこと～	山田 麻理	39
R7.2.13	医療型障害児入所施設における口腔ケアの現状と課題～より良い口腔環境をめざして～	こども療育センター ○目黒 典子、塩田 絵梨子、高藤 哲也、荒井 美希	33
	看護師が生活習慣に対する患者指導を難しいと考える要因の探索～看護師が自信を持って指導に臨める環境の構築を目指して～	4階病棟 ○佐藤 まどか、廣瀬 絢美、岡本 淳	33
	看護師のフットケアに対する実態調査	5階病棟 ○尾野 綾菜、番場 一美、西塚 恵史奈	33
	回復期リハビリテーション病棟における手指衛生の実態	6階病棟 ○古田島 一、土田 直子、大田 瑠香、青山 令	33

6 委員等就任状況

山形 崇倫

No	就任状況	就任年月日
1	自治医科大学 客員教授	R5.4.1
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 専門委員	R5.4.1
3	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 科学技術調査員	R5.10.1
4	栃木県保健衛生事業団学術委員	R5.4.1

No	就任状況	就任年月日
5	宇都宮市児童相談所のあり方検討懇談会委員	R5.10.1
6	日本小児神経学会 監事	R5.4.1
7	日本遺伝子細胞治療学会 理事	R4.4.1
8	日本 ADHD 学会 理事	H30.4.1
9	日本てんかん学会 評議員	H22.4.1
10	日本人類遺伝学会 評議員	R5.11.1
11	社団法人 とちぎ子ども医療支援プロジェクト 代表理事	R5.9.1
12	Brain and Development 編集委員	H24.4.1
13	小児神経学会 SMA マスクリーニング検討委員会	R2.4.1

船越 政範

No	就任状況	就任年月日
1	栃木県高次脳機能障害支援連携協議会委員	H29.4.1
2	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会・広報委員会委員	H29.4.1
3	栃木県災害リハビリテーション支援関連団体協議会会長	H26.4.14
4	日本リハビリテーション医学会会則検討委員会委員	R4.4.1
5	日本リハビリテーション医学会代議員	H24.4.1
6	日本リハビリテーション医学会関東地方会幹事	H27.9.1
7	北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人	H26.8.9
8	栃木県国保介護給付費審査委員会委員長	R5.4.1

7 その他

ロコモ啓発活動

(1) ロコモ度テスト器具貸し出し 7 件

No	使用日	貸し出し先
1	R6.7.2	真岡市大内中学校
2	R6.8.26 ~ 9.25	日本健康財団
3	R6.10.6	済生会宇都宮病院
4	R6.11.5	栃木県庁
5	R6.11.10	地域包括支援センター奈坪
6	R6.12.3	日本健康財団
7	R7.3.13	日本健康財団

地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町 3337-1
TEL 028-623-6101
<https://tochigi-riha.jp/>

お問い合わせ

	TEL	FAX
■ リハビリテーションセンターの全体に関すること …………… 総務課	028-623-6101	028-623-6151
■ 初診予約に関すること……………	028-623-7254	028-623-6125
■ 窓口業務に関すること…………… 医事課	028-623-6124	028-623-6125
■ 医療センターの利用に関すること…………… 地域医療連携室	028-623-7051	028-623-7052
■ こども発達支援センターに関すること…………… 通園療育課	028-623-6128	028-623-6129
■ こども療育センターに関すること…………… 入所療育課	028-623-6138	028-623-6139
■ 障害者自立訓練センター（駒生園）に関すること…………… 自立支援課	028-623-6310	028-623-6325